長岡技術科学大学

国際連携センター

# 年　報

# 第７号

（２０１７年度）

**Annual Report No.7**

Center for International Exchange and Education

Nagaoka University of Technology

# 巻　頭　挨　拶

長岡技術科学大学国際連携センターの平成 29(2017)年度の活動報告として、年報第７号をお届けします。

国際連携センターは、本学の国際連携教育活動のうち、海外の学術機関との交流促進、留学生の教育指導、日本人学生と留学生を対象とした国際交流を中心として担う組織で、平成 23(2011)年度に教員と事務職員の両者が属する組織として発足しました。以来、教員と事務職員が、協働して活動に取り組んできたと思います。

2017 年度の国際連携センターにおける、留学生を対象とした活動としては、日本語基礎コース、日本語研修コースを、例年どおり通年で開催するとともに、10 月に山梨で中央リニア実験線の見学と富士山五合目への実地見学旅行を実施しました。また、日本人学生を対象とした活動としては、「グローバルリーダー養成のための短期海外派遣プログラム」により６名の学生が３週間から３ヶ月間、海外の大学等での経験を積んできました。さらに、スーパーグローバル大学創成支援事業や、インド、メキシコにおける大学の世界展開力強化事業の展開を背景として、昨年度から開始された短期留学生受入プログラム　Nagaoka Summer School for Young Engineers（NASSYE）では、８ヶ国から 20 名の学部及び大学院の学生が、８月に本学の研究活動を経験しました。また、ツイニング・プログラム学生の夏期集中プログラムも行いました。このような活動は、センター以外の先生方や他部署の職員のご協力によって、実現できたと考えております。

今後は、大学として、フィージブル、かつ、サスティナブルな活動、留学生の目線に立った留学生のためになる活動を目指すべきと考えています。

皆様からの一層のご支援とご鞭撻をお願いして、巻頭言といたします。

長岡技術科学大学国際連携センター長
杉 本 光 隆

# 目　次　Contents

巻頭挨拶　　国際連携センター長

**国際連携センター活動報告**

１．本学における国際交流

１－１　本学の国際交流の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１

１－２　スーパーグローバル大学創成支援事業・・・・・・・・・・・・・・・・３

１－３　大学の世界展開力強化事業

ロシア、インド等との大学間交流形成支援・・・・・・・・・・・・・・５

中南米等との大学間交流形成支援・・・・・・・・・・・・・・・・・・６

１－４　留学生の状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・８

１－５　学術交流協定の状況等・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・９

１－６　学術交流協定校等との交流・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１３

２．国際連携教育プログラム

２－１　ツイニング・プログラム・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２０

２－２　ダブルディグリー・プログラム・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２６

２－３　大学院社会人留学生特別コース・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２９

２－４　留学生交流支援制度・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３２

２－５　日本人学生の海外派遣の取組・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３５

２－６　三機関が連携・協働した教育改革プログラム・・・・・・・・・・・・・３９

３．日本語教育事業　活動報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４０

３－１　日本語研修コース・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４１

３－２　日本語基礎コース・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４５

３－３　ビジネス日本語入門・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４７

３－４　日本語能力試験対策クラス・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４８

３－５　日本語・日本事情科目（学部・大学院）　・・・・・・・・・・・・・５０

３－６　日本語関連科目開講時間割・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・５２

４．留学生支援事業・地域交流事業

４－１　留学生相談　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・５４

４－２　留学生行事・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・５４

４－３　留学生会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・５４

４－４　地域交流事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・５５

５．国際連携センター刊行物等の状況

５－１　国際連携センター刊行物等・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・５７

**資料**

・外国人留学生数一覧・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・５９
・外国人留学生数推移表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・６０
・民間団体等奨学金受給状況（推移）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・６１
・国立大学法人長岡技術科学大学国際連携センター規則・・・・・・・・・・・６２
・国際連携センター構成員（平成 30 年３月１日現在）　・・・・・・・・・・６４
・平成２９年度国際連携センター会議開催実績　・・・・・・・・・・・・・・６５

**【別添】**

・長岡技大の国際展開

# 国際連携センター
# 活動報告

（平成 29 年４月１日～平成 30 年３月 31 日）

# ≪１≫ 本学における国際交流

## １－１　本学の国際交流の概要

開学以来、本学は特色のある国際交流を展開し、日本社会のグローバル化に対応した教育・研究システムを築いてきた。

具体的には、海外の大学・研究所等との学生交流や研究交流はもとより、ツイニング・プログラム、大学院社会人留学生特別コース、ダブルディグリー・プログラムなど独自の国際連携教育プログラムを実施し、多大な成果を達成してきた。また、国際協力機構（JICA）が実施する様々な国際教育協力事業や、科学技術振興機構（JST）が実施する「さくらサイエンスプラン」にも積極的に参加し、多様な国から多数の留学生を受け入れている。

これらの取り組みにより、近年急速に経済発展を遂げている東アジア・東南アジア・南西アジア諸国、中南米諸国などから多くの留学生を継続的に受け入れており、留学生比率は国立大学の中でもトップクラスとなっている。本学を卒業・修了した後に、母国の政府・大学・企業等で活躍する留学生も増えている。

留学生の受入数が増えることにより、留学生と日本人学生との交流が活発になり、海外留学や海外実務訓練に関心を持つ日本人学生が増えている。本学は日本人学生の海外派遣にも力を入れており、学部４年生を対象とする海外実務訓練は大きな特色の一つである。

大学院レベルの派遣としては、ダブルディグリー・プログラムによる派遣を実施している。我が国ではグローバル人材の育成が強く求められているところ、本学は継続して日本人学生の海外派遣を促進し、奨学金による経済支援やさまざまな情報提供を実施している。

平成29年度は、昨年度に引き続き、２回目となるサマースクール” Nagaoka Summer School for Young Engineers ”（略称NASSYE）を８月に実施した。協定校の学生を含む20名の留学生が10日間にわたり、本学の研究室における研究、企業見学、日本文化体験を行った。参加した留学生のアンケート結果によれば、プログラムの内容に対する満足度は非常に高く、平成30年度も実施する方向で準備を進めている。

また、メキシコのヌエボレオン大学とモンテレイ大学とのツイニング・プログラム参加学生を対象とする夏期研修、およびベトナムのハノイ工科大学、ホーチミン市工科大学、ダナン工科大学、中国の鄭州大学との各ツイニング・プログラム参加学生を対象とする夏期集中プログラムも、それぞれ２週間、６～７月に実施した。

平成27年度に採択された、大学の世界展開力強化事業「NAFTA生産拠点メキシコとの協働による15歳に始まる技術者教育モデルの世界展開」は、計画通り順調に推移してい

る。特に、日本とメキシコとの間の学生交流は、当初の計画数を上回る人数実績を達成している。平成29年度に中間評価が行われ、評価結果は「Ｓ　優れた取組状況であり、事業目的の達成が見込まれる。」という内容であった。

平成26年度に採択された、大学の世界展開力強化事業「長期インターンシップ実績を活用した南インドとの共同実践的技術者教育プログラム」も順調に実施中である。

スーパーグローバル大学創成事業「グローバル社会のニーズに応える実践的技術者育成プログラム～グローバル産学官融合キャンパスの構築～」は平成26年度に開始し、平成35年度までの期間、事業計画に基づく事業の実施と留学生受入比率を含む各種目標値の達成に向けて、全力で取り組んでいるところである。平成29年度に中間評価が実施され、評価結果は「Ａ　これまでの取り組みを継続することによって、事業目的を達成することが可能と判断される。」という内容であった。

本学の国際交流は、長岡市をはじめとする地域の方々からのご理解・ご助力が大きな力添えとなっており、本年度も様々なご支援を頂いた。

例えば、メキシコのツイニング・プログラム学生を対象とする夏期研修では、留学生は地域の方々のご協力を得てホームステイを体験し、日本の生活や食文化に触れることができた。年末年始に地域のご家庭に受け入れて頂いた留学生は、長岡のお正月を満喫した。

また、恒例の留学生等交流懇談会を平成29年11月に本学で開催し、長岡市や地域の方々を中心として多数のご来賓にご参加頂き、留学生とご来賓の皆様との親睦を深めることができた。

この場を借りて、平素より本学の留学生にご支援頂いている関係者の皆様に心より御礼申し上げます。

留学生等交流懇談会

## １－２　スーパーグローバル大学創成支援事業

平成26年度に文部科学省が創設した「スーパーグローバル大学等事業　スーパーグローバル大学創成支援」は、世界レベルの教育研究を行うトップ大学や、先導的試行に挑戦し我が国の大学の国際化を牽引する大学など、徹底した国際化と大学改革を断行する大学を重点支援することにより、我が国の高等教育の国際競争力を強化することを目的に平成26年度から平成35年度までの10年間、実施される予定である。本学が申請した、「グローバル社会を牽引する実践的技術者育成プログラム～グローバル産学官融合キャンパス構築～」は、「タイプＢ（グローバル化牽引型）」として採択された。本学が採択された「タイプＢ（グローバル化牽引型）」には、全国の国公私立大学から93件（国立大学44件）の申請があり、うち24件（国立大学10件）が採択された。

本構想では、本学は、①高専―技大（技学）教育研究モデルを次世代戦略地域に展開しGIGAKU教育研究ネットワークを構築、②産学連携モデルを戦略的海外拠点に展開し、GIGAKUテクノパークネットワークを構築、を柱にグローバル産学官融合キャンパスを実現し、「次世代の戦略的地域との強固なネットワークを持ち、世界を牽引する実践的グローバル技術者教育を先導し続ける大学」を目指す。

また、本構想を実現するため、①学生・教員の双方向の交流、②GIGAKUテクノパークでの産学連携研究と戦略拠点の日系企業及び現地企業の持続的イノベーションを支援、③グローバル産学官融合キャンパスを利用したグローバルイノベーション人材の育成、④企業からの資金により自立的・持続的発展が保証される仕組みの構築、等に全学で取り組むこととしている。

国際連携センターでは、平成28年度から、短期留学生受入プログラムとして、①Nagaoka Summer School for Young Engineers (NASSYE)、②ツイニング・プログラム夏期集中プログラムを開始し、平成29年度は次のとおり実施した。

①Nagaoka Summer School for Young Engineers (NASSYE)

海外の大学の学部第３学年又は修士課程第１学年に在籍する学生に対して、本学の受入研究室が設定するテーマに基づく研修への参加及び企業等見学を行った。

| 受入期間：平成29年８月20日(日)～平成29年８月31日(木) | |
|---|---|
| 参加学生出身国数 | ８か国 |
| 参加学生数（学部13名、修士課程７名） | 20名 |

②ツイニング・プログラム夏期集中プログラム

ツイニング・プログラム夏期集中プログラムは、ツイニング・プログラムの学生が本

学に入学するにあたり、十分なオリエンテーションを行うべく、前半教育の早い時期に日本文化に触れ、日本語でコミュニケーションを取り、生活するスタイルに慣れる機会を持たせ、入学１年前の約２週間、本学で、実験、演習、講義等を日本語で体験させる支援プログラムを実施するものである。

| 受入期間：平成29年６月25日(日)～平成29年７月９日(日) | |
|---|---|
| モンテレイ大学（メキシコ） | ２名 |
| ヌエボレオン大学（メキシコ） | ２名 |
| 合計 | ４名 |

| 受入期間：平成29年７月10日(月)～平成29年７月21日(金) | |
|---|---|
| ハノイ工科大学（ベトナム） | ６名 |
| ホーチミン市工科大学（ベトナム） | ７名 |
| ダナン工科大学（ベトナム） | ５名 |
| 合計 | 18名 |

| 受入期間：平成29年７月11日(火)～平成29年７月20日(木) | |
|---|---|
| 鄭州大学（中国） | ８名 |

ツイニング・プログラム夏期集中プログラム（ベトナム）

Nagaoka Summer School for Young Engineers (NASSYE)

## １－３　大学の世界展開力強化事業

文部科学省「大学の世界展開力強化事業」は、国際的に活躍できるグローバル人材の育成と大学教育のグローバル展開力の強化を目指し、高等教育の質の保証を図りながら、日本人学生の海外留学と外国人学生の戦略的受入を行うアジア・米国・欧州等の大学との国際教育連携の取組を支援することを目的として、文部科学省において平成23年度から開始された事業である。

長岡技術科学大学は、平成26年度公募「ロシア、インド等との大学間交流形成支援」並びに平成27年度公募「中南米等との大学間交流形成支援」にそれぞれ採択され、インド並びにメキシコの大学との連携を推進している。

以下に各事業の概略を示す。

### （１）ロシア、インド等との大学間交流形成支援

本学が申請したインド工科大学マドラス校（IITM）及びインド情報・設計・生産技術大学カーンチプラム校 （IIITD＆M）との「長期インターンシップ実績を活用した南インドとの共同実践的技術者教育プログラム」は、インドの両大学との間で長年に渡り学生交流を行ってきた実績を基に、質の保証されたダブルディグリー・プログラム等の共同教育体制及び産学官連携ネットワークを構築するとともに、海外実務訓練の一層の拡充を図り、日系企業及び現地企業を牽引するイノベーティブな実践的グローバル技術者を養成する教育プログラムを整備し、将来的には本事業で実現する教育プログラムをインドの他大学をはじめ、世界の戦略的海外拠点に展開する事を目的としている。

４年目となる平成29年度は、海外実務訓練（長期インターンシップ）として、学生８人の約５か月間の長期派遣を行った。うち１名は前年度に協定を締結した新規の派遣先企業において実習を行った。また、平成28年度に締結した大学院レベルの単位互換協定を利用して日本人学生１名がIITMに留学し、IITMでの授業履修により単位を取得した。このほか短期派遣プログラムとして学生２名の派遣を行い、派遣先の指導教員から高い評価を得た。

インドからの受入れでは、日本国内の民間企業との三者間協定に基づき受入れたインド人学生４名が、本学での事前研修を経て３企業でのインターンシップを行った。うち２社は新規の実習先である。当該インターンシップは民間企業の経済支援を受けるスキームによる受入であることから、事業の継続性の観点から非常に有意義である。

また、在日インド大使館においてIITMと本学で日印共同セミナーを開催し、日印の関係教員、日本留学中のインド人学生及びインドに留学した日本人学生が大学の世界展開力強化事業で得た成果について発表し、インドに関係する大学・企業・団体からの参加者を得て、本事業の成果を広く共有・還元することができた。

短期受入プログラム学生の企業見学

日印共同セミナー（在日インド大使館）

（２）中南米等との大学間交流形成支援

本学が代表校となり、鶴岡工業高等専門学校、茨城工業高等専門学校、小山工業高等専門学校、長岡工業高等専門学校と合同で申請した「NAFTA生産拠点メキシコとの協働による15歳に始まる技術者教育モデルの世界展開」は、メキシコのグアナファト大学高専コース及びその母体となるグアナファト大学、本学とツイニング・プログラムを運営してきたモンテレイ大学及びヌエボレオン大学との協働により、本学が長年培ってきた「高専―技大型技術者教育モデル」を、日墨双方の学生が両国を段階的・機能的に往来しつつ交流する中で、地球規模課題の解決能力及びグローバルなコミュニケーション能力を持つ人材へと成長させる双方向型へと深化、世界展開を図り、国際協働技術者教育モデルとして確立させることを目的としている。

特に、NAFTAの生産拠点として自動車産業の進出が目覚ましいメキシコでは、専門的知識を持った技術者が強く望まれており、「高専－技大型の技術者教育モデル」の展開により、産業界を支える人材育成に貢献できるように事業を推進していく。

事業３年目となった平成29年度は、本学及び連携する４高専からメキシコの３大学へ合計40名の学生を派遣した（平成27年度28名、平成28年度35名）。このうち10名は平成29年度に初めて実施したモンテレイ大学での４週間の語学研修に参加し、アカデミックコースの英語とスペイン語を受講した。学生受入については合計で27名であった（平成27年度７名、平成28年度27名）。平成29年７月にはグアナファト大学高専コースの学生11名が引率教員２名とともに茨城高専、小山高専、長岡高専を訪問した。また、平成29年度にはメキシコの大学と日本企業１社、及び本学の間で三者間インターンシップ協定を締結したことにより、メキシコ人学生が日本企業でインターンシップを行うことができた。

なお、平成29年度に事業の中間評価が行われ、評価結果は「Ｓ　優れた取組状況であり、事業目的の達成が見込まれる。」という内容であり、今後、目指す技術者教育モデルが日墨双方の連携の強化により、着実に定着していくことが期待されている。

モンテレイ大学、ヌエボレオン大学での研修の様子

グアナファト大学高専コースの学生と教員

## １－４　留学生の状況

本学の留学生数は、学術交流協定大学からの短期留学生を含め、月300名前後で推移しており、ツイニング・プログラムを実施しているベトナムをはじめ、中国、タイ、メキシコ出身の留学生が、全体の約３分の２を占めている。

平成26年度に採択された大学の世界展開力強化事業（インド）が４年目、平成27年度に採択された（中南米）が３年目となり、また、各国の学術交流協定大学等からの受入れも活性化しており、年間約80名の短期留学生を受け入れた。

JICA のアフリカの若者のための産業人材育成イニシアティブプログラム（ABE イニシアティブ）からも５名の研修生を受入れ、また、平成 30 年度からは、モンゴルとのツイニング・プログラムの留学生も受け入れ予定である。今後、本学の多様化が推進されるものと期待している。

## １－５　学術交流協定の状況等

### （１）学術交流協定の概要

学術の発展と国際交流の促進に寄与するため、世界24カ国・地域の74大学・研究所と大学間の国際学術交流協定を締結しており（研究室・部局間の国際学術交流協定を併せて世界26カ国・地域の100大学・研究所）、学生、教職員、研究者の交流、国際共同研究等を実施している。

### （２）学術交流協定リスト

平成29年度に新規締結した学術交流協定機関（部局間・研究室間交流を含む）は、以下のとおりである。

１．河南理工大学（中国）
２．南華大学核技術科学院（中国）
３．ホーチミン市科学大学（ベトナム）
４．カントー大学土木工学部（ベトナム）
５．タイ教育省職業教育局（タイ）
６．インド工科大学ティルパティ校機械工学科（インド）
７．ヤンゴン情報技術大学（ミャンマー）
８．スイス連邦工科大学ローザンヌ校パワーエレクトロニクス研究室（スイス）

平成30年３月31日現在の学術交流協定締結機関等一覧は下表のとおりである。

表１　学術交流協定締結機関等一覧（平成30年３月31日現在）

| 国名 | レベル | 大学名 | 締結年月日 |
|---|---|---|---|
| 中国 | 大学間 | 大連理工大学 | 昭和 63 年 10 月 19 日 |
| | | 河海大学 | 平成 8 年 7 月 25 日 |
| | | 鄭州大学 | 平成 17 年 12 月 2 日 |
| | | 重慶交通大学 | 平成 20 年 12 月 29 日 |
| | | 中国科学院長春応用化学研究所 | 平成 21 年 1 月 10 日 |
| | | 中国科学院金属研究所 | 平成 21 年 1 月 11 日 |
| | | 河南理工大学 | 平成 29 年 10 月 4 日 |
| | 部局間 | 重慶大学工学部 | 平成 25 年 10 月 8 日 |
| | | 南華大学核技術科学院 | 平成 29 年 6 月 5 日 |

| 国名 | レベル | 大学名 | 締結年月日 |
|---|---|---|---|
| | 研究室間 | 北京科学技術大学国立材料サービス安全センター高温高圧研究室、東北大学未来科学技術共同研究センター | 平成 27 年 5 月 5 日 |
| ベトナム | 大学間 | ハノイ工科大学（コンソーシアム） | 平成 16 年 3 月 18 日 |
| | | ダナン大学（コンソーシアム） | 平成 16 年 3 月 18 日 |
| | | ホーチミン市工科大学（コンソーシアム） | 平成 16 年 3 月 18 日 |
| | | ホーチミン市技術教育大学 | 平成 21 年 4 月 6 日 |
| | | ベトナム海事大学 | 平成 26 年 6 月 16 日 |
| | | ベトナム原子力研究所 | 平成 26 年 9 月 5 日 |
| | | ホーチミン市科学大学 | 平成 29 年 6 月 7 日 |
| | 部局間 | カントー大学土木工学部 | 平成 29 年 10 月 23 日 |
| タイ | 大学間 | タマサート大学 | 平成 11 年 3 月 9 日 |
| | | パトムワン工科大学 | 平成 12 年 6 月 6 日 |
| | | タイ商工大学 | 平成 15 年 3 月 24 日 |
| | | コンケーン大学 | 平成 15 年 12 月 5 日 |
| | | ラジャマンガラ工科大学タンヤブリ校 | 平成 17 年 4 月 6 日 |
| | | 国立科学技術開発機構 | 平成 20 年 1 月 5 日 |
| | | 泰日工業大学 | 平成 23 年 2 月 9 日 |
| | | チュラロンコン大学 | 平成 24 年 5 月 24 日 |
| | | アジア工科大学 | 平成 24 年 9 月 4 日 |
| | | スラナリ工科大学 | 平成 24 年 11 月 9 日 |
| | | メーファールアン大学 | 平成 26 年 3 月 18 日 |
| | | カセサート大学 | 平成 27 年 12 月 17 日 |
| | | キングモンクット工科大学トンブリー校 | 平成 28 年 3 月 18 日 |
| | | パンヤピワット経営大学 | 平成 28 年 12 月 7 日 |
| | | タイ教育省職業教育局 | 平成 29 年 6 月 7 日 |
| | 部局間 | チェンマイ大学工学部機械工学科 | 平成 27 年 11 月 12 日 |
| | | シンクロトロン放射光研究所 | 平成 28 年 1 月 14 日 |
| マレーシア | 大学間 | マラヤ大学 | 平成 16 年 1 月 6 日 |
| | | マレーシア工科大学 | 平成 17 年 4 月 15 日 |
| | | マレーシア科学大学 | 平成 17 年 10 月 19 日 |
| | | マラ工科大学 | 平成 17 年 12 月 14 日 |
| | | マレーシア国民大学 | 平成 20 年 9 月 3 日 |
| | | トゥンフセインオンマレーシア大学 | 平成 22 年 7 月 23 日 |

| 国名 | レベル | 大学名 | 締結年月日 |
|---|---|---|---|
| | 部局間 | クアラルンプール大学 | 平成 24 年 10 月 16 日 |
| | | マラッカ工業大学工学部 | 平成 29 年 3 月 3 日 |
| 台湾 | 大学間 | 国立台北科技大学 | 平成 18 年 3 月 17 日 |
| | | 国立清華大学 | 平成 26 年 3 月 20 日 |
| | 部局間 | 国立台湾科技大学機械工学科、電子工学科、電気工学科、情報工学科 | 平成 22 年 1 月 12 日 |
| 韓国 | 大学間 | ウルサン大学 | 平成 18 年 8 月 11 日 |
| | | 韓国電気技術研究所 | 平成 12 年 7 月 26 日 |
| | | 釜山国立大学 | 平成 20 年 10 月 27 日 |
| | | 韓国生産技術研究院 | 平成 24 年 3 月 2 日 |
| | 学部間 | 韓国国立全北大学工学部 | 平成 13 年 5 月 1 日 |
| | 研究室間 | ソガン大学李研究室 | 平成 20 年 3 月 7 日 |
| | | 国立忠南大学金鍾賢研究室 | 平成 27 年 10 月 5 日 |
| インド | 大学間 | インド工科大学マドラス校 | 平成 12 年 1 月 11 日 |
| | | インド情報・設計・生産技術大学カーンチプラム校 | 平成 23 年 1 月 5 日 |
| | | インディラガンジ原子力研究所 | 平成 22 年 1 月 11 日 |
| | 部局間 | インド工科大学ティルパティ校機械工学科 | 平成 30 年 1 月 24 日 |
| モンゴル | 大学間 | モンゴル科学技術大学 | 平成 11 年 7 月 23 日 |
| | | モンゴル国立教育大学 | 平成 26 年 7 月 11 日 |
| インドネシア | 大学間 | バンドン工科大学 | 平成 17 年 8 月 3 日 |
| | | スルヤ大学 | 平成 26 年 7 月 8 日 |
| | | インドネシア大学 | 平成 27 年 3 月 13 日 |
| ミャンマー | 大学間 | ヤンゴン工科大学 | 平成 25 年 12 月 24 日 |
| | | ヤンゴンコンピューター大学 | 平成 25 年 12 月 20 日 |
| | | ヤンゴン情報技術大学 | 平成 29 年 6 月 22 日 |
| スリランカ | 大学間 | サバラガムワ大学 | 平成 26 年 3 月 8 日 |
| アメリカ | 大学間 | テキサス大学エルパソ校 | 平成 15 年 12 月 17 日 |
| | 部局間 | コー大学物理学科 | 平成 24 年 11 月 7 日 |
| カナダ | 大学間 | マニトバ大学 | 平成 10 年 9 月 28 日 |
| メキシコ | 大学間 | グアナファト大学 | 平成 15 年 2 月 17 日 |
| | | ミチョアカナ大学 | 平成 16 年 10 月 5 日 |
| | | モンテレイ工科大学（コンソーシアム） | 平成 16 年 11 月 30 日 |
| | | ヌエボレオン大学（コンソーシアム） | 平成 16 年 11 月 30 日 |

| 国名 | レベル | 大学名 | 締結年月日 |
|---|---|---|---|
| | | モンテレイ大学（コンソーシアム） | 平成 16 年 11 月 30 日 |
| | | レジオモンタナ大学（コンソーシアム） | 平成 16 年 11 月 30 日 |
| | | シウダーフアレス大学 | 平成 20 年 6 月 3 日 |
| ベネズエラ | 大学間 | シモン・ボリバール大学 | 平成 7 年 12 月 12 日 |
| ドイツ | 大学間 | ダルムシュタット工科大学 | 平成 18 年 9 月 20 日 |
| | | 応用科学大学 | 平成 20 年 3 月 12 日 |
| | 部局間 | マグデブルグ大学及びマグデブルグ応用科学大学安全防災コース | 平成 24 年 11 月 8 日 |
| | 研究室間 | ドイツゴム研究所 | 平成 25 年 11 月 19 日 |
| ハンガリー | 大学間 | ミシュコルツ大学 | 平成 6 年 3 月 21 日 |
| スペイン | 大学間 | カタルニア工科大学 | 平成 9 年 11 月 6 日 |
| | | デウスト大学 | 平成 27 年 4 月 16 日 |
| | 部局間 | モンドラゴン大学工学部 | 平成 27 年 1 月 21 日 |
| フランス | 大学間 | パリ大学クレテイユヴァルドマルヌ校 | 平成 25 年 6 月 17 日 |
| | 部局間 | アミアン電子電気工学技術高等学院 | 平成 26 年 1 月 31 日 |
| | | リモージュ大学セラミック加工・表面処理研究所 | 平成 26 年 2 月 26 日 |
| | 研究室間 | ル・マン大学分子材料研究所 | 平成 27 年 9 月 28 日 |
| スイス | 大学間 | チューリッヒ応用科学大学工学部 | 平成 28 年 3 月 16 日 |
| | 研究室間 | スイス連邦工科大学チューリッヒ校電力工学システム研究室 | 平成 21 年 1 月 14 日 |
| | | スイス連邦工科大学ローザンヌ校パワーエレクトロニクス研究室 | 平成 29 年 10 月 7 日 |
| ノルウェー | 部局間 | ノルウェー科学技術大学情報・数学・電気工学部 | 平成 21 年 11 月 26 日 |
| チェコ共和国 | 部局間 | プラハ・カレル大学数学・物理学部物理学科 | 平成 25 年 7 月 17 日 |
| イギリス | 大学間 | クイーンズ大学ベルファスト校 | 平成 27 年 6 月 17 日 |
| | 研究室間 | ノッティンガム大学パワーエレクトロニクス・機械制御グループ | 平成 28 年 2 月 16 日 |
| オーストラリア | 大学間 | オーストラリア原子力科学技術機構 | 平成 17 年 2 月 24 日 |
| | 部局間 | カーティン大学理工学部 | 平成 28 年 3 月 29 日 |
| アゼルバイジャン | 大学間 | アゼルバイジャン科学アカデミーバクー物理学研究所 | 平成 11 年 6 月 16 日 |
| 南アフリカ | 大学間 | ツワネ工科大学 | 平成 25 年 8 月 23 日 |

## １－６　学術交流協定校等との交流

平成29年度の学術交流協定校等との交流は、以下のとおりである。

### （１）学生交流

平成29年度に実施された学生交流（派遣・受入）は下表のとおりである。

【派遣】13か国・地域の32機関へ90名の学生を派遣

| 協定機関名 | 国・地域 | 区分 | 学生数 | 期間 |
|---|---|---|---|---|
| インド工科大学マドラス校 | インド | 海外実務訓練 | ２名 | H29.9 ～H30.1 |
| | | 海外実務訓練 | ３名 | H29.9 ～H30.2 |
| | | 海外実務訓練（トビタテ）※１ | ２名 | H29.9 ～H30.2 |
| | | 世界展開力（インド）※２ | １名 | H30.1 ～H30.2 |
| | | 世界展開力（インド）※２ | １名 | H30.1 ～H30.3 |
| | | 研究指導委託 | １名 | H29.7 ～H30.1 |
| インド情報・設計・生産技術大学カーンチプラム校 | インド | 海外実務訓練 | １名 | H29.9 ～H30.2 |
| インドネシア大学 | インドネシア | 海外実務訓練 | １名 | H29.9 ～H30.2 |
| オーストラリア原子力科学技術機構 | オーストラリア | トビタテ!留学Japan | １名 | H30.1 ～H30.2 |
| カーティン大学 | オーストラリア | グローバルリーダー※３ | １名 | H30.1 ～H30.3 |
| カタルニア工科大学 | スペイン | 海外実務訓練 | ３名 | H29.9 ～H30.2 |
| キングモンクット工科大学トンブリー校 | タイ | 海外実務訓練 | １名 | H29.9 ～H30.2 |
| | | インターンシップ※４ | １名 | H29.11～H29.12 |
| タマサート大学 | タイ | 海外実務訓練 | ４名 | H29.9 ～H30.1 |
| ラジャマンガラ工科大学 | タイ | 海外実務訓練 | ６名 | H29.9 ～H30.2 |
| | | 研究指導委託 | １名 | H30.2 ～H30.2 |
| コンケーン大学 | タイ | 海外実務訓練 | １名 | H29.9 ～H30.2 |
| | | インターンシップ※４ | １名 | H30.2 ～H30.3 |
| チュラロンコン大学 | タイ | 海外実務訓練 | １名 | H29.9 ～H30.1 |
| | | インターンシップ※４ | ２名 | H30.1 ～H30.2 |
| | | インターンシップ※４ | １名 | H30.1 ～H30.3 |

| 協定機関名 | 国・地域 | 区分 | 学生数 | 期間 |
|---|---|---|---|---|
| アジア工科大学 | タイ | 海外実務訓練 | １名 | H29.8 ～H30.2 |
| 泰日工業大学 | タイ | 海外実務訓練 | ２名 | H29.9 ～H30.2 |
| パトムワン工科大学 | タイ | 海外実務訓練 | ４名 | H29.9 ～H30.2 |
| スラナリー工科大学 | タイ | 海外実務訓練 | ２名 | H29.9 ～H30.2 |
| チェンマイ大学 | タイ | 海外実務訓練 | ２名 | H29.9 ～H30.2 |
| カセサート大学 | タイ | 海外実務訓練 | ３名 | H29.9 ～H30.2 |
| | | インターンシップ※４ | １名 | H29.12～H29.12 |
| | | インターンシップ（兼グローバルリーダー）※４ | １名 | H29.12～H29.12 |
| ダルムシュタット工科大学 | ドイツ | 海外実務訓練 | １名 | H29.9 ～H30.2 |
| ハノイ工科大学 | ベトナム | 海外実務訓練 | ２名 | H29.9 ～H30.2 |
| | | 海外実務訓練 | １名 | H29.10～H30.1 |
| | | 海外実務訓練（トビタテ）※１ | １名 | H29.10～H30.1 |
| ホーチミン市工科大学 | ベトナム | 海外実務訓練 | ２名 | H29.8 ～H30.2 |
| | | 海外実務訓練 | １名 | H29.9 ～H30.1 |
| ダナン大学 | ベトナム | 海外実務訓練 | １名 | H29.9 ～H30.2 |
| マレーシア科学大学 | マレーシア | 海外実務訓練 | ２名 | H29.8 ～H30.2 |
| | | 海外実務訓練 | １名 | H29.9 ～H30.1 |
| マラ工科大学 | マレーシア | 海外実務訓練 | ３名 | H29.9 ～H30.2 |
| マラヤ大学 | マレーシア | 研究指導委託 | １名 | H29.4 ～H29.7 |
| マレーシア日本国際工科院 | マレーシア | インターンシップ※４ | １名 | H30.2 ～H30.3 |
| グアナファト大学 | メキシコ | 海外実務訓練 | １名 | H29.9 ～H30.2 |
| モンテレイ大学 | メキシコ | 海外実務訓練 | ２名 | H29.9 ～H30.2 |
| | | 世界展開力（メキシコ）※２ | 10名 | H30.1 ～H30.2 |
| ヌエボレオン大学 | メキシコ | 世界展開力（メキシコ）※２ | ３名 | H30.3 ～H30.3 |
| リモージュ大学 | フランス | 海外実務訓練 | １名 | H29.9 ～H30.1 |
| | | インターンシップ（トビタテ）※４ | １名 | H29.10～H29.12 |
| クイーンズ大学ベルファスト校 | イギリス | インターンシップ※４ | １名 | H30.1 ～H30.3 |
| スイス連邦工科大学ローザンヌ校 | スイス | 異分野リサーチインターンシップ | １名 | H29.8 ～H30.2 |
| 国立清華大学 | 台湾 | インターンシップ※４ | １名 | H29.10～H30.2 |

※１トビタテ!留学Japan
※２大学の世界展開力強化事業に基づく派遣
※３グローバルリーダー養成のための短期派遣プログラム
※４海外リサーチインターンシップ

【受入】10か国・地域の36機関から151名の学生を受入

| 協定機関名 | 国・地域 | 区分 | 学生数 | 期間 |
|---|---|---|---|---|
| インド工科大学マドラス校 | インド | 特別聴講学生 | ３名 | H29.5 ～H29.7 |
| | | 特別聴講学生 | ３名 | H29.12～H30.1 |
| | | 特別聴講学生 | ２名 | H29.12～H30.2 |
| | | 特別研究学生 | ３名 | H29.6 ～H29.7 |
| | | 特別研究学生 | ２名 | H29.12～H30.1 |
| | | 特別研究学生 | １名 | H30.1 ～H30.2 |
| インド情報･設計･生産技術大学カーンチプラム校 | インド | 特別聴講学生 | １名 | H29.5 ～H29.7 |
| | | 特別研究学生 | １名 | H29.12～H30.1 |
| インドネシア大学 | インドネシア | 特別聴講学生 | １名 | H29.3 ～H29.7 |
| | | 特別聴講学生 | １名 | H29.7 ～H29.9 |
| バンドン工科大学 | インドネシア | 特別聴講学生 | １名 | H29.7 ～H29.9 |
| デウスト大学 | スペイン | 特別聴講学生 | １名 | H28.9 ～H29.4 |
| | | 特別聴講学生 | １名 | H29.9 ～H30.2 |
| モンドラゴン大学 | スペイン | 特別聴講学生 | １名 | H28.10～H29.6 |
| | | 特別聴講学生 | ２名 | H29.10～H30.6 |
| カタルニア工科大学 | スペイン | 特別聴講学生 | １名 | H29.2 ～H29.7 |
| | | 特別聴講学生 | １名 | H29.3 ～H29.9 |
| | | 特別聴講学生 | ２名 | H30.2 ～H30.6 |
| チュラロンコン大学 | タイ | さくらサイエンスプラン※１ | ５名 | H29.11～H29.11 |
| | | 特別聴講学生 | ２名 | H29.5 ～H29.7 |
| | | 特別聴講学生 | １名 | H29.6 ～H29.8 |
| | | 特別聴講学生 | ２名 | H29.6 ～H29.11 |
| | | 特別聴講学生 | ３名 | H30.1 ～H30.2 |
| | | 特別研究学生 | １名 | H28.10～H29.5 |
| カセサート大学 | タイ | 特別聴講学生 | ２名 | H29.1 ～H29.5 |
| | | 特別聴講学生 | ２名 | H30.1 ～H30.5 |

| 協定機関名 | 国・地域 | 区分 | 学生数 | 期間 |
|---|---|---|---|---|
| コンケーン大学 | タイ | 特別聴講学生 | １名 | H29.1 ～H29.4 |
| | | 特別聴講学生 | １名 | H30.1 ～H30.4 |
| スラナリー工科大学 | タイ | 特別聴講学生 | １名 | H29.7 ～H29.10 |
| | | 特別聴講学生 | １名 | H29.11～H30.3 |
| | | 特別聴講学生 | １名 | H29.12～H30.3 |
| タイ商工大学 | タイ | 特別聴講学生 | ５名 | H28.6 ～H29.5 |
| | | 特別聴講学生 | ２名 | H29.6 ～H30.5 |
| タマサート大学 | タイ | 特別聴講学生 | ２名 | H29.6 ～H29.8 |
| パトムワン工科大学 | タイ | 特別聴講学生 | １名 | H29.6 ～H29.9 |
| | | 特別聴講学生 | １名 | H29.12～H30.3 |
| ラジャマンガラ工科大学タンヤブリ校 | タイ | 特別聴講学生 | １名 | H29.10～H30.1 |
| | | 特別研究学生 | ３名 | H29.12～H30.1 |
| 泰日工業大学 | タイ | 特別聴講学生 | １名 | H29.1 ～H29.5 |
| アジア工科大学 | タイ | 特別研究学生 | １名 | H29.5 ～H29.8 |
| キングモンクット工科大学トンブリー校 | タイ | 特別聴講学生 | １名 | H29.10～H30.3 |
| チェンマイ大学 | タイ | 特別研究学生 | ２名 | H29.10～H29.10 |
| 大連理工大学 | 中国 | 特別聴講学生 | ３名 | H29.4 ～H30.1 |
| | | 特別聴講学生 | １名 | H29.5 ～H30.1 |
| 鄭州大学 | 中国 | TP夏期研修プログラム※２ | ８名 | H29.7 ～H29.7 |
| アミアン電子電気工学技術高等学院 | フランス | 特別聴講学生 | ２名 | H29.3 ～H29.6 |
| | | 特別聴講学生 | ５名 | H30.3 ～H30.6 |
| ハノイ工科大学 | ベトナム | さくらサイエンスプラン※１ | ３名 | H29.10～H29.10 |
| | | さくらサイエンスプラン※１ | ３名 | H29.12～H29.12 |
| | | TP 夏期集中プログラム※３ | ６名 | H29.7 ～H29.7 |
| ホーチミン市工科大学 | ベトナム | 特別聴講学生 | １名 | H30.2 ～H30.3 |
| | | TP 夏期集中プログラム※３ | ７名 | H29.7 ～H29.7 |
| ダナン工科大学 | ベトナム | さくらサイエンスプラン※１ | ４名 | H30.2 ～H30.3 |
| | | TP 夏期集中プログラム※３ | ６名 | H29.7 ～H29.7 |
| マレーシア科学大学 | マレーシア | さくらサイエンスプラン※１ | ３名 | H29.11～H29.11 |
| | | 特別聴講学生 | ２名 | H29.6 ～H29.9 |
| トゥンフセインオンマレーシア大学 | マレーシア | さくらサイエンスプラン※１ | １名 | H30.2 ～H30.2 |
| | | 特別聴講学生 | ５名 | H29.7 ～H29.8 |
| | | 特別研究学生 | １名 | H30.2 ～H30.2 |

| 協定機関名 | 国・地域 | 区分 | 学生数 | 期間 |
|---|---|---|---|---|
| マラヤ大学 | マレーシア | 特別聴講学生 | １名 | H29.3 ～H29.5 |
| | | 特別聴講学生 | １名 | H30.3 ～H30.6 |
| マラッカ工業大学 | マレーシア | 特別聴講学生 | ２名 | H29.5 ～H29.7 |
| | | 特別聴講学生 | ２名 | H30.2 ～H30.7 |
| マレーシア工科大学 | マレーシア | 特別聴講学生 | １名 | H30.2 ～H30.5 |
| マラ工科大学 | マレーシア | 特別聴講学生 | １名 | H30.2 ～H30.7 |
| マニトバ大学 | カナダ | 特別聴講学生 | １名 | H29.6 ～H29.8 |
| ヌエボレオン大学 | メキシコ | TP 夏期集中プログラム※３ | ２名 | H29.6 ～H29.7 |
| モンテレイ大学 | メキシコ | 特別聴講学生 | １名 | H29.8 ～H29.9 |
| | | TP 夏期集中プログラム※３ | ２名 | H29.6 ～H29.7 |
| ミチョアカナ大学 | メキシコ | 特別研究学生 | １名 | H29.3 ～H29.9 |
| グアナファト大学 | メキシコ | 特別聴講学生 | ２名 | H29.10～H29.12 |
| | | 特別聴講学生 | ２名 | H30.2 ～H30.6 |

※１　日本・アジア青少年サイエンス交流事業さくらサイエンスプラン

※２　鄭州大学ツイニング・プログラム夏期研修プログラム

※３　ツイニング・プログラム夏期集中プログラム

（２）交流協定機関からの訪問

平成29年度の学術交流協定機関からの本学訪問は以下のとおりである。

①　平成29年７月14日　ツワネ工科大学

②　平成29年８月30日　コンケーン大学

③　平成29年10月４日　ハノイ工科大学長

④　平成29年12月６日　キングモンクット工科大学

⑤　平成30年１月23日　タイ教育省職業教育委員会事務局（OVEC）

⑥　平成30年３月20日　チュラロンコン大学

⑦　平成30年３月29日　インド工科大学マドラス校

①ツワネ工科大学来訪

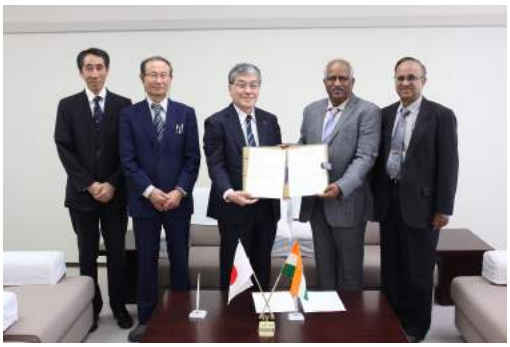
②コンケーン大学来訪

③ハノイ工科大学来訪

④キングモンクット工科大学トンブリー校

⑤タイ教育省職業教育委員会事務局来訪

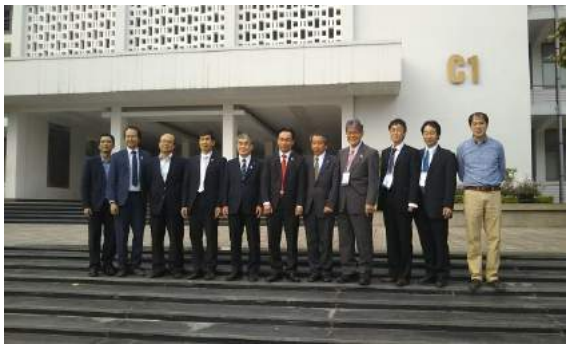
⑥チュラロンコン大学来訪



⑦インド工科大学マドラス校来訪

平成29年度の学術交流協定機関への本学学長の訪問は以下のとおりである。

①平成30年１月30日　ハノイ工科大学




①ハノイ工科大学

# ≪２≫ 国際連携教育プログラム

## ２－１　ツイニング・プログラム

ツイニング・プログラムは、アジア圏及び中南米の優秀な学生を対象に本学の学部第３学年へ編入学させ、２年間の留学期間で効果的な工学教育を行い、日本語のできる指導的技術者を養成することを目標としている。2003年にハノイ工科大学とのツイニング・プログラムを開始してから、現在は５カ国、８大学・機関と実施しており、プログラム全体で、毎年30～40名の学生が本学第３学年に編入学している。なお、ハノイ工科大学、ダナン工科大学、マレーシア及びモンゴル科学技術大学とのプログラムは、コンソーシアム形式による協働プログラムとして実施している。

本プログラムは、学部教育の前半２．５年（鄭州大学及びマレーシアツイニング・プログラムは３年）を現地の大学にて日本語教育及び専門基礎教育を現地教員が主体となって実施し、後半２年は日本において専門教育を実施する。現地での日本語教育・専門基礎教育を修了し、現地の大学の推薦を受けた学生は、日本留学のための第３学年編入学試験の受験資格を得て、本学又はコンソーシアム大学が実施する編入学試験を受験する。編入学試験に合格した学生のみ日本留学が可能となり、不合格の学生は、引き続き現地の大学にて学部教育を受け、現地大学の学位を取得することができる。プログラムの全課程を修了した学生には、日本の大学の学位及び現地の大学の学位が授与される。

### （１）プログラム概要

本学では、現在、以下の大学又は機関とツイニング・プログラムを実施している。

①ベトナム・ハノイ工科大学（平成15年～）
- 本学対象課程：機械創造工学課程
- 群馬大学、豊橋技術科学大学、名古屋工業大学、岐阜大学、三重大学、和歌山大学及び北見工業大学とのコンソーシアム

②ベトナム・ホーチミン市工科大学（平成18年～）
- 本学対象課程：電気電子情報工学課程

③ベトナム・ダナン工科大学（平成18年～）
- 本学対象課程：環境社会基盤工学課程
- 豊橋技術科学大学及び岐阜大学とのコンソーシアム

④メキシコ・ヌエボレオン大学（平成19年～）
- 本学対象課程：環境社会基盤工学課程

⑤メキシコ・モンテレイ大学（平成19年～）
- 本学対象課程：機械創造工学課程、情報・経営システム工学課程

⑥中国・鄭州大学（平成19年～、鄭州大学とのプログラムに限り９月入学）
- 本学対象課程：物質材料工学課程

⑦マレーシア日本高等教育プログラム（MJHEP）（平成23年～）

・本学対象課程：機械創造工学課程、電気電子情報工学課程

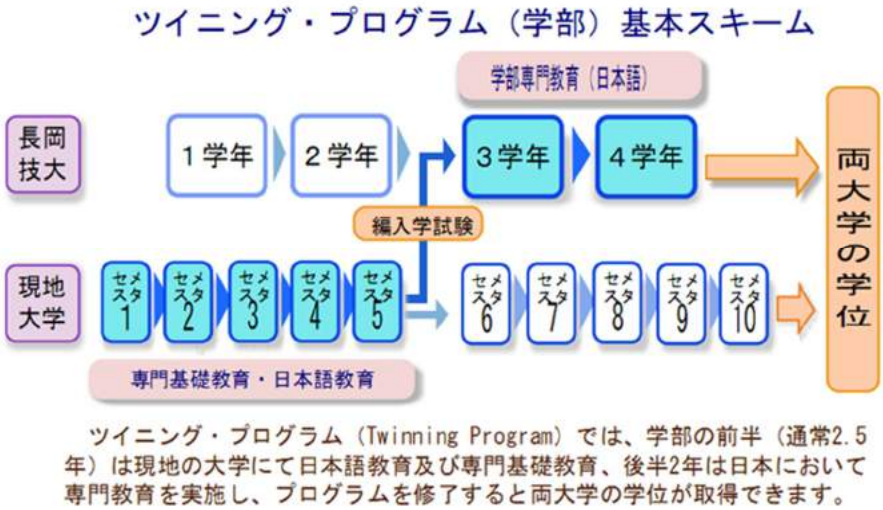
・JUCTe（特定非営利活動法人日本国際教育大学連合）が実施する「マレーシア日本高等教育プログラム（MJHEP）」によるプログラム

・国公私立22大学によるコンソーシアム

⑧モンゴル工学系高等教育支援事業(M-JEED)（平成26年～）

・本学対象課程：機械創造工学課程、環境社会基盤工学課程

（２）プログラムの基本スキーム




（３）プログラム別本学入学志願者数等内訳（平成30年度入試）

平成30年度入試（平成29年度実施）　　単位：人

| プログラム | 志願者 | 受験者 | 合格者 | 入学者 |
|---|---|---|---|---|
| ハノイ工科大学 | 6 | 6 | 6 | 2 |
| ホーチミン工科大学 | 9 | 9 | 7 | 7 |
| ダナン工科大学 | 8 | 8 | 7 | 6 |
| ヌエボレオン大学 | 1 | 1 | 1 | 1 |
| モンテレイ大学（機械） | 2 | 2 | 2 | 1 |
| モンテレイ大学（情報） | 0 | 0 | 0 | 0 |
| マレーシア（機械） | 5 | 5 | 4 | 3 |
| マレーシア（電気） | 6 | 6 | 4 | 2 |
| モンゴル科学技術大学（機械） | 12 | 12 | 10 | 7 |
| モンゴル科学技術大学（環社） | 8 | 8 | 8 | 4 |

（４）平成29年度事業実施状況

①ベトナム・ハノイ工科大学

・平成30年度入試（現地試験：平成30年１月９日〔火〕、TV会議併用）

・現地大学説明会（コンソーシアム合同：平成29年11月10日〔金〕）

説明会前にコンソーシアム大学とSIEとのミーティング実施

・国内コンソーシアム会議（２回）

平成29年９月22日（金）〔東京工業大学キャンパスイノベーションセンター東京〕

平成30年３月１日（木）〔名古屋工業大学〕

・海外実務訓練学生（TA）の派遣（２名）

・日本語アチーブメントテストの実施

・夏期集中プログラム（平成29年７月10日〔月〕～21日〔金〕）［６名］

・集中講義

| 出張者 | 授業科目等 | 日程 |
|---|---|---|
| 徳田　献一 講師<br>（和歌山大学） | 材料力学 | H29.9.25-9.29 |
| 中西　栄徳 准教授<br>（三重大学） | 工業力学 | H29.11.6-11.10 |
| 光石　暁彦 助教<br>（豊橋技術科学大学） | 熱力学 | H29.11.6-11.9 |
| 田浦　裕生 准教授 | 工学実験 | H30.1.8-1.12 |
| 山田　功 教授<br>（群馬大学） | 情報処理 | H30.3.5-3.9 |
| 井上　吉弘 准教授<br>（名古屋工業大学） | 水力学 | H30.3.12-3.16 |

②ベトナム・ホーチミン市工科大学

・平成30年度入試（現地試験：平成30年１月５日〔金〕、TV会議併用）

・入学直前研修（平成30年３月26日〔月〕～４月４日〔水〕）

平成30年度入学者（第10期生７名）を対象に実施

・日本語アチーブメントテストの実施

・夏期集中プログラム（平成29年７月10日〔月〕～21日〔金〕）［７名］

・集中講義

| 出張者 | 授業科目等 | 日程 |
|---|---|---|
| 鵜沼 毅也 准教授 | 光物性工学、レポート作成・演習 | H29.8.7-8.10 |
| 髙山　良久 氏<br>（ホーチミン市工科大学） | 数学・物理・科学の専門用語、演習 | H29.8.7-8.10 |
| 玉山 泰宏 准教授 | 固体のバンド構造、および、導電体、絶縁体、半導体の性質 | H30.1.8-1.11 |
| 髙山　良久 氏<br>（ホーチミン市工科大学） | 物理、波動、電磁気、原子と素粒子に関する物理用語 | H30.1.8-1.11 |

③ベトナム・ダナン工科大学

・平成30年度入試（現地試験：平成30年１月８日〔火〕）
　入試後にコンソーシアム大学とダナン工科大学とのミーティング実施
・現地大学説明会（コンソーシアム合同、在学生参加：平成29年９月12日〔火〕）
・国内コンソーシアム会議（１回）
　平成30年３月15日（木）〔東京工業大学キャンパスイノベーションセンター東京〕
・日本語アチーブメントテストの実施
・夏期集中プログラム（平成29年７月10日〔月〕～21日〔金〕）［５名］
・集中講義

| 出張者 | 授業科目等 | 日程 |
|---|---|---|
| 松田　曜子 准教授 | 社会基盤計画の基礎、地域防災の基礎 | H30.3.5-3.6 |

④メキシコ・ヌエボレオン大学

・平成30年度入試（現地試験：平成29年11月14日〔火〕、TV会議併用）
・現地学生オリエンテーション（平成29年８月14日〔月〕）
・メキシコツイニング・プログラム夏期研修（平成29年６月26日〔月〕～７月９日〔日〕）モンテレイ大学と合同で実施
・専門基礎科目及び日本語アチーブメントテストの実施
・集中講義

| 出張者 | 授業科目等 | 日程 |
|---|---|---|
| 豊田　浩史 准教授 | インフラの維持管理について | H29.8.14-8.16 |
| 高橋　修 教授 | レポート作成･演習、土質力学、数理基礎 | H30.3.5-3.8 |

⑤メキシコ・モンテレイ大学

・平成30年度入試（現地試験：平成29年11月15日〔水〕、TV会議併用）
・現地学生オリエンテーション（平成29年８月16日〔水〕）
・メキシコツイニング・プログラム夏期研修（平成29年６月26日〔月〕～７月９日〔日〕）ヌエボレオン大学との合同で実施
・海外実務訓練学生（TA）の派遣（１名）
・日本語アチーブメントテストの実施
・集中講義

| 出張者 | 授業科目等 | 日程 |
|---|---|---|
| 倉橋　貴彦 准教授 ※ | 機械工学関係の力学、物理 | H29.5.31 |
| 山岸　郷志 助教 ※ | 機械工学関係の力学、物理 | H29.6.7 |
| 羽山　徹彩 准教授 ※ | 確率統計、微分・積分の基礎 | H29.5.30、6.6 |
| 倉橋　貴彦 准教授 | 機械工学関係の力学、物理 | H29.11.14-11.16 |
| 倉橋　貴彦 准教授 | 力学、数学 | H30.3.15 |
| 曾田　英雄 准教授 | 研究紹介 | H30.3.15 |

※　TV会議システムにより実施

⑥中国・鄭州大学

・夏期研修プログラム（平成29年７月11日〔火〕～20日〔木〕）［８名］

・集中講義

| 出張者 | 授業科目等 | 日程 |
|---|---|---|
| 石橋　隆幸 教授 | 磁気光学材料、結晶性無機材料化学 | H29.11.25-11.26 |
| 本間　剛 准教授 | 全固体電池、無定型無機材料化学 | H29.11.25-11.26 |
| 河原　成元 准教授 | 天然ゴム化学の展開 | H30.3.11-3.12 |

⑦マレーシア・MJHEPプログラム（平成23年～）

・平成30年度入試（現地試験：平成29年11月25日〔土〕～11月26日〔日〕）

・現地大学説明会（平成29年５月21日〔日〕）

⑧モンゴル工学系高等教育支援事業(M-JEED)（平成26年～）

・国内コンソーシアム会議（４回）

平成29年５月19日（金）〔JICA本部、テレビ会議システム〕
平成29年９月４日（月）〔JICA本部、テレビ会議システム〕
平成29年10月24日（火）〔JICA本部、テレビ会議システム〕
平成30年２月15日（木）〔JICA本部、テレビ会議システム〕

・集中講義

| 出張者 | 授業科目等 | 日程 |
|---|---|---|
| 山本　謙一郎 講師 | 数学 | H29.7.31-8.4 |
| 北谷　英嗣 教授 | 物理 | H29.8.7-8.11 |
| 宮下　剛 准教授 | 構造工学 | H29.8.7-8.11 |
| 秋田　知芳 講師（山口大学） | 構造理論Ⅰ | H29.8.7-8.11 |
| 森西　晃嗣 教授（京都工芸繊維大学） | 流体力学 | H29.8.8-8.11 |
| 山尾　敏孝 教授（熊本大学） | 構造力学 | H30.1.22-1.26 |
| 水谷　晃啓 助教（豊橋技術科学大学） | 建築計画 | H30.1.22-1.26 |
| 田浦　裕生 准教授（JMOOC） | 機械力学 | H30.1.22-1.26 |

ハノイ工科大学TP学生オリエンテーション

ホーチミン工科大学集中講義

モンテレイ大学集中講義

ヌエボレオン大学集中講義

## ２－２　ダブルディグリー・プログラム

ダブルディグリー・プログラムは、「複数の連携する大学間において、各大学が開設した同じ学位レベルの教育プログラムを、学生が修了し、各大学の卒業要件を満たした際に、各大学がそれぞれ当該学生に対し学位を授与する」（「我が国の大学と外国の大学間におけるジョイント・ディグリー及びダブルディグリー等国際共同学位プログラム構築に関するガイドライン」〔平成26年11月14日 中央教育審議会 大学分科会 大学のグローバル化に関するワーキング・グループ〕から抜粋）プログラムである。

本学においても学部レベルにおけるツイニング・プログラムの充実を図るとともに、大学院レベルでの国際連携教育プログラムの構築を行ってきた。ダブルディグリー・プログラムについては、平成22年度にメキシコ・グアナファト大学及び韓国・釜山国立大学と協定を締結したのを皮切りに、年々プログラムの充実を図っている。

### （１）プログラム概要

本学では、現在、以下の５大学とダブルディグリー・プログラムに関する協定を締結の上、プログラムを実施している。

メキシコ・グアナファト大学（修士課程：平成22年12月６日協定締結）
　対象：物質材料工学専攻
メキシコ・グアナファト大学（博士後期課程：平成24年10月１日協定締結）
　対象：材料工学専攻、エネルギー・環境工学専攻
マレーシア・マレーシア科学大学（博士後期課程：平成24年12月31日協定締結）
　対象：材料工学専攻、エネルギー・環境工学専攻
タイ・チュラロンコン大学理学部（博士後期課程：平成25年７月15日協定締結）
ベトナム・ハノイ工科大学（博士後期課程：平成26年４月４日協定締結）
　対象：材料工学専攻、エネルギー・環境工学専攻、生物統合工学専攻
チェコ・プラハ・カレル大学数学・物理学部（博士後期課程：平成26年９月４日協定締結）

これら以外にも、多くの大学とダブルディグリー・プログラムの実施に向けて検討を進めており、検討中の大学については、上記大学の協定書、スキーム等に近い形で、相手大学と交渉を行っている。

学内規則上、学生の受入れは学則第55条の２「転入学」、派遣は学則第60条「留学」の扱いとなる。学生の修了要件は、通常の学生と同様である。

入学料及び授業料免除の取扱い、受入・派遣学生数、使用言語等はそれぞれの協定書で定めることとなる。

（２）平成29年度事業実施状況

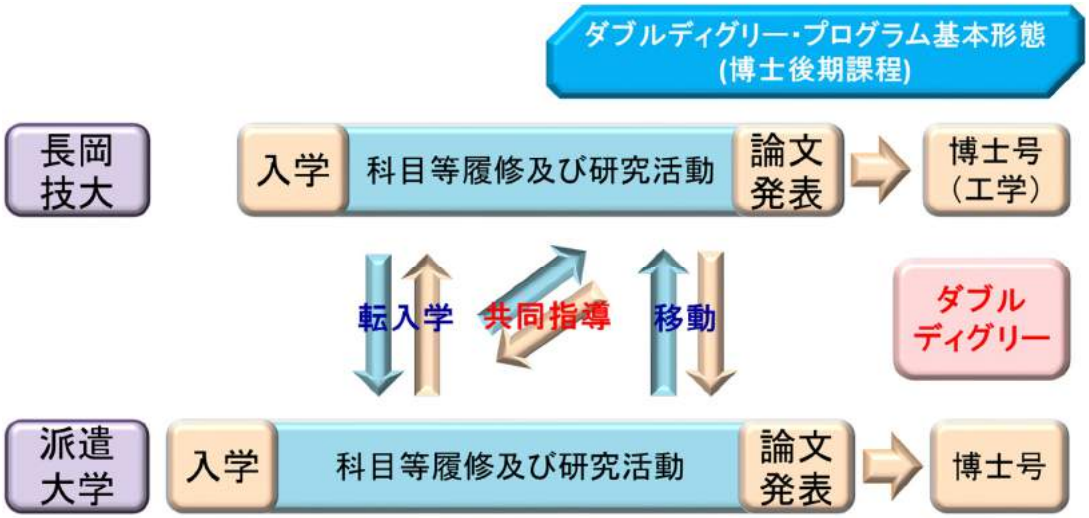
①ハノイ工科大学との博士後期課程におけるプログラムについて、平成27年４月に学生１名を本学博士後期課程エネルギー・環境工学専攻に受け入れ、当該学生が、平成29年６月に本学を修了し、博士号を取得した。

②プラハ・カレル大学数学・物理学科との博士後期課程におけるプログラムについて、平成27年４月に学生１名をエネルギー・環境工学専攻に受け入れ、当該学生が、平成29年８月に本学を修了し、博士号を取得した。

③チュラロンコン大学理学部との博士後期課程におけるプログラムについて、平成29年４月に学生１名をエネルギー・環境工学専攻に受け入れた。

④グアナファト大学との博士後期課程におけるプログラムについて、平成29年９月に学生１名をエネルギー・環境工学専攻に受け入れた。

（３）ダブルディグリー・プログラムのスキーム（博士後期課程の場合）




（４）その他の大学院プログラム

ダルムシュタット工科大学とのジョイントディグリー・プログラムの概要（博士後期課程）

対象学生：本学博士後期課程学生、ダルムシュタット工科大学博士学位取得予定者

派遣・受入期間：連続する１年以上２年未満の滞在（ただし、３か月以上１年未満の滞在の場合は、少なくとも受入大学での研究成果による公表論文１報を要件とする。）

プログラム参加者の身分：本プログラムでダルムシュタット工科大学から受け入れる者の身分は、本学において「特別研究学生」として扱われる。本プログラムで派遣される本学博士後期課程の学生の身分は、ダルムシュタット工科大学において「PhD Student」として扱われる。

受入人数：各大学からの参加者は３名までとする。
学位授与：学位は、原籍大学から授与される。また、プログラム修了者については学位授与に合わせてジョイントディグリー・プログラムを修了した旨の証明書（サーティフィケート）が別途発行される。

## ２－３　大学院社会人留学生特別コース

「大学院社会人留学生特別コース」は、大学院工学研究科における発展途上国の社会人を対象とした留学生特別プログラムであり、平成24年度「国費外国人留学生（研究留学生）の優先配置を行う特別プログラム」として選定された。本コースは、平成26年度から大学院特別プログラムとして設置され、修士課程では「社会人留学生実践型インターンシップ」（選択必修科目）、博士後期課程では「境際協働プロジェクト研究」（必修科目）を新規で開講した。また、国際連携センターでは、「社会人留学生実践型インターンシップ」を履修する学生の日本語予備教育として、「ビジネス日本語入門」を開講している。

### （１）プログラム概要

本プログラムの前身プログラムは（財）海外技術者研修協会（AOTS）の支援協力を受け、平成６年度に修士課程に創設、平成11年度に博士後期課程に創設した。以来、本プログラムは、ASEAN地域の発展途上国の企業等における実務経験者を対象とした工業系の社会人教育コースとして実績を重ね、同コースの修了生は現地日系企業、政府機関、大学、現地企業等における研究指導者、指導的技術者として活躍している。平成24年度からは、前身プログラムを発展させ、社会人技術者、研究者を対象とし、母国の産業の発展に貢献するリーダーを育成するコースとして平成25年度から留学生の受け入れを開始した。本プログラムの前身プログラムはASEAN諸国を主に対象として実施してきたが、近年のアフリカ等からの関心を踏まえ、平成25年度入学者募集より、募集対象国をすべての発展途上国へと拡大した。また、近年の留学生のニーズに応えて、企業等におけるインターンシップの実施及びビジネス日本語の開講によりプログラムの充実を図っている。

### （２）平成29年度実施状況

昨年度に引き続き、広報用ポスター等を作成し、関係国・機関に送付するとともに、新規に中央アジア、中南米、中東、アフリカ等の機関へも送付した。

以下の表は、平成30年度本プログラムの入学者選抜試験実施状況である。

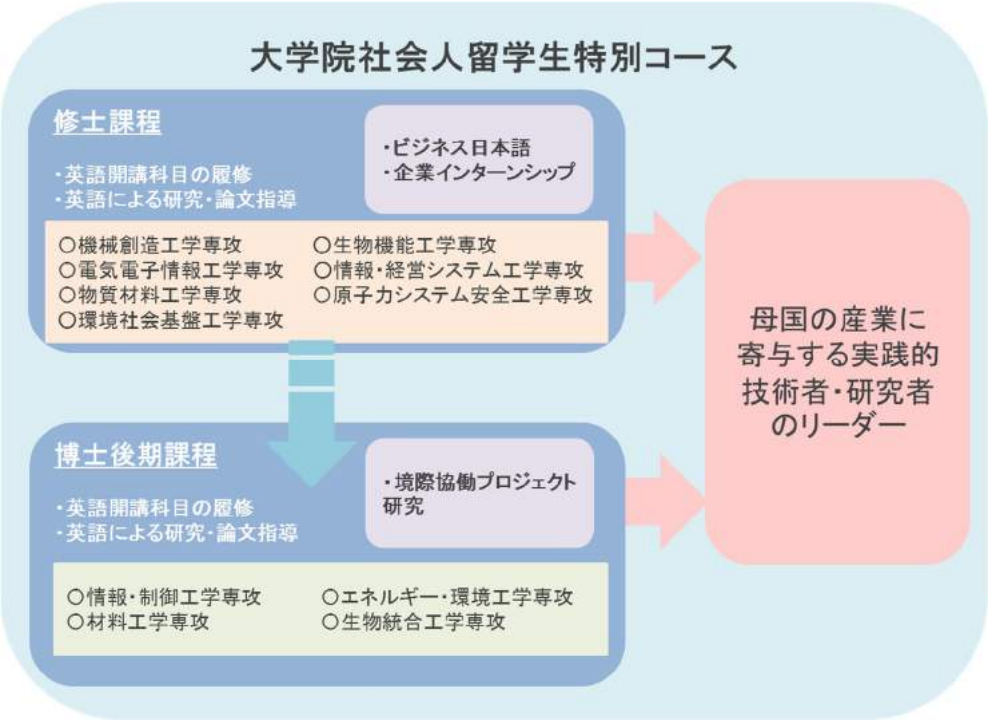
**修士課程**　　単位：人

| 専攻名 | 志願者数 | 受験者数 | 合格者数 |
|---|---|---|---|
| 機械創造工学 | 0 | 0 | 0 |
| 電気電子情報工学 | 0 | 0 | 0 |
| 物質材料工学 | 1 | 1 | 1 |
| 環境社会基盤工学 | 1(1) | 1(1) | 1(1) |
| 生物機能工学 | 0 | 0 | 0 |
| 情報・経営システム工学 | 2(1) | 2(1) | 0 |
| 原子力システム安全工学 | 0 | 0 | 0 |
| 合計 | 4(2) | 4(2) | 2(1) |

**博士後期課程**　　単位：人

| 専攻名 | 志願者数 | 受験者数 | 合格者数 |
|---|---|---|---|
| 情報・制御工学 | 1(1) | 1(1) | 1(1) |
| 材料工学 | 0 | 0 | 0 |
| エネルギー・環境工学 | 0 | 0 | 0 |
| 生物統合工学 | 0 | 0 | 0 |
| 合計 | 1(1) | 1(1) | 1(1) |

※　修士課程、博士後期課程とも、(　)は内数で女子を表す。




（３）開講科目

**①社会人留学生実践型インターンシップ（Internship for CPD students）〔修士課程〕**

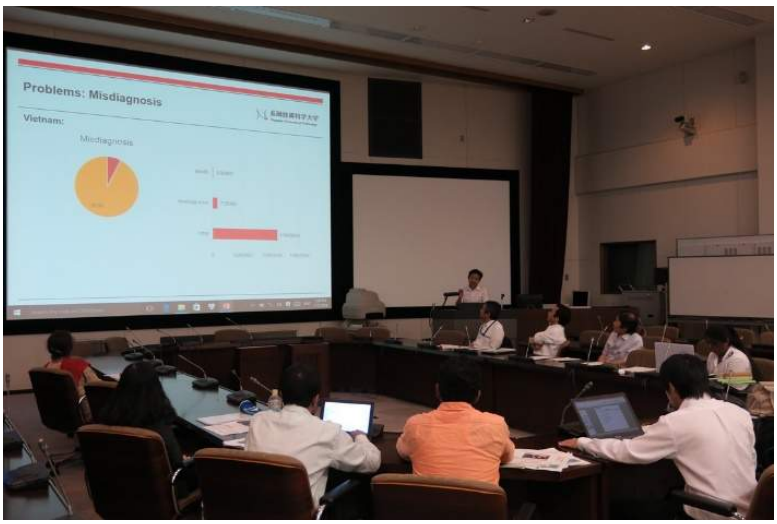
平成26年度から新規に開講したインターンシップ科目「Internship for CPD students」については、日本語ビジネスコースの受講生であることが条件としたことから、この科目の受講生を対象としてインターンシップ先についての希望を聴取するとともに、ライオンズ・クラブ、ロータリー・クラブ等のチャンネルで引き受けについて照会したところ、下表の各社から引受可能との回答をいただいた。この派遣先候補リストに基づき、学生の日程、関心、専門分野等との突合せを行った結果、平成29年度については、８月から９月初旬までの期間に、３社に３名が一週間程度派遣された。

社会人留学生インターンシップ引受回答をいただいた企業（修士コースの学生対象）

| 受入れ先 | 所在地 | 業種等 |
|---|---|---|
| 水澤電機㈱ | 長岡市新産 | 電気設備工事 |
| エヌシー㈱ | 長岡市越路 | コンクリートの製造、品質管理 |
| アドバンスソフト㈱ | 東京都千代田区 | 解析シミュレーションソフトウェア開発 |

**②境際協働プロジェクト研究（Interdisciplinary Joint Project Study）〔博士後期課程〕**

博士課程の社会人留学生に対して新規に開講した科目Interdisciplinary Joint Project Studyは、異なる専攻に学ぶ博士課程の学生との共同作業経験とビジネスを指向した技術経営力、事業創造力の涵養を目的とした科目であり、通年科目（卒業要件単位外であるが、コース必修科目）として開講した。最初の学期である第２学期にはSWOT分析、Five Forces分析を用いて提案事業の競争力分析を行い、第３学期には技術調査を行う。最終学期である次年度第１学期には事業提案書の取りまとめを行う。



## ２－４　留学生交流支援制度

（１）海外留学支援制度（協定受入）

本センターでは、日本学生支援機構（JASSO）の海外留学支援制度（協定受入）に５件申請したが不採択だった。なお、（重点政策枠）に申請した１件の受入プログラムが採択され実施した。

海外留学支援制度（募集要項より抜粋）

| |
|---|
| 海外留学支援制度(協定受入)は、我が国の大学、大学院、短期大学、高等専門学校又は専修学校（専門課程）（以下「高等教育機関」という。）が、諸外国の高等教育機関（大学、大学院、短期大学、高等専門学校又は専修学校（専門課程）に相当する諸外国の機関をいう。）と学生交流に関する協定等を締結し、それに基づき、諸外国の高等教育機関から短期間外国人留学生を受け入れる場合に、当該学生に対して、留学に係る費用の一部を奨学金として支援することにより、我が国の高等教育機関の学生交流の充実を図るとともに、我が国の高等教育機関の国際化・国際競争力強化に資することを目的とします。 |
| 奨学金月額　80,000円 |

**≪実施プログラム概要≫**

〇実践的グローバル技術者を育成するプログラム

（目的・目標）

本プログラムは、学生の交流実績が高いマレーシア、タイ、ドイツ協定大学の学生を受け入れ、単位を修得させるとともに、本学の掲げる技学（技術科学）に基づく教育に触れてもらい、日本式の研究への取り組み修学方法を学び、場合によってはインターンシップを実施し、日本に理解のある技術者を育む。また、短期間であっても慣れない環境の中で研究を進めることで、コミュニケーションスキルの向上を目指すとともに、現代社会のグローバル化を実感してもらい視野を広げることを目的とし、国際感覚を涵養する。多様なバックグラウンドをもつ人々との価値観や特性の差を乗り越えて、技術開発を適正に社会へ普及することにより新たな価値を生み出すことのできる人材育成に寄与する。将来は、母国と日本との懸け橋として、親日的かつ実践的な技術者として、グローバルに活躍することが期待される。

（受入人数・期間）

| 在籍大学 | 人数 | 期間 |
|---|---|---|
| マレーシア科学大学（マレーシア） | １名 | 平成29年６月～平成30年５月（予定）の３か月から５カ月間で受け入れ |
| チュラロンコン大学（タイ） | １名 | |
| モンドラゴン大学（スペイン） | １名 | |
| ラジャマンガラ工科大学タンヤブリ校（タイ） | １名 | |
| スラナリ工科大学（タイ） | ２名 | |
| パトムワン工科大学（タイ） | １名 | |
| コンケーン大学（タイ） | １名 | |
| マレーシア工科大学（マレーシア） | １名 | |
| マラヤ大学（マレーシア） | １名 | |

（プログラム実施状況）

各協定大学から総勢10名を受け入れ、本学の研究室で研究活動を中心に行っている。

受入期間はで３か月から５ヵ月間と学生によって様々である。各留学生は日本語の授業や大学行事に積極的に参加するなど、日本文化を積極的に吸収する姿勢が見られる。また、研究室の学生との交流を行う事で、日本人学生の語学力向上、国際感覚養成にも役立っている。

（２）日本･アジア青少年サイエンス交流事業」（さくらサイエンスプラン）

独立行政法人　科学技術振興機構（以下JST）の「日本･アジア青少年サイエンス交流事業」（以下、「さくらサイエンスプラン」という。）に応募し、６件の交流計画が採択され、JSTと業務委託契約を結び実施した。

なお実施にともなう経費については、計画に基づき提供され、精算後未使用分は返金となる。

さくらサイエンスプラン（ＪＳＴホームページより抜粋）

「日本･アジア青少年サイエンス交流事業」（以下「さくらサイエンスプラン」という。）は、産学官の緊密な連携により、アジアを中心とする地域から優秀な青少年を日本に短期に招へいし、未来を担う青少年が科学技術の分野で交流を深めることを目指します。そしてアジアを中心とする地域の青少年の日本の最先端の科学技術への関心を高め、日本の大学・研究機関や企業が必要とする海外からの優秀な人材の育成を進め、もって世界の科学技術の発展に貢献することを目的としています。

**・採択交流計画**

コース名：A.科学技術体験コース（複数年度計画H28～H30）

実施期間：平成29年11月９日～11月18日

招へい人数：10名（タイ：チュラロンコン大学、マレーシア：マレーシア科学大学）

コース名：B.共同研究活動コース（複数年度計画H28～H30）
実施期間：平成30年２月11日～２月25日
招へい人数：２名（マレーシア：トゥンフセインオンマレーシア大学）

コース名：A.科学技術体験コース
実施期間：平成29年10月11日～10月20日
招へい人数：４名（ベトナム：ハノイ工科大学）

コース名：A.科学技術体験コース
実施期間：平成29年11月13日～11月20日
招へい人数：11名（中国：ハルビン工業大学、ハルビン理工大学）

コース名：C.科学技術研修コース
実施期間：平成29年12月４日～12月13日
招へい人数：10名（ベトナム：ハノイ工科大学、ダラット大学）

コース名：B.共同研究活動コース
実施期間：平成30年２月22日～３月３日
招へい人数：10名（ベトナム：ダナン工科大学、ダナン工業大学）

## ２－５　日本人学生の海外派遣の取組

国際連携センターでは、平成24年度より引き続き、日本人学生の海外派遣等に関する支援業務を行った。また、本学の中長期成長戦略を受け、平成24年度より引き続き、「グローバルリーダー養成のための短期海外派遣プログラム」を企画し、実施した。

### （１）海外実務訓練による海外派遣の状況

平成29年度、実務訓練に参加した学生のうち、海外機関等へ派遣された学生は66名で、実務訓練全体に占める海外実務訓練の比率は約16%である。派遣機関等は以下のとおりである。

海外派遣機関…14カ国・地域、37機関

タイ　：National Metal and Materials Technology Center (MTEC)（４名）、SIAM SENATER（２名）、NIDEC COPAL (Thailand) Co., Ltd.（２名）、Azbil Production (Thailand) Co., Ltd.（２名）、HINO MOTORS THAI（２名）、Western Digital (Thailand) Co., Ltd.（２名）、新電元タイランド（２名）、KYB Steering (Thailand) Co., Ltd.（２名）、チェンマイ大学（２名）、アジア工科大学（１名）、カセサート大学（１名）、キングモンクット工科大学トンブリー校（１名）、コンケーン大学（１名）、チュラロンコン大学（１名）、ラジャマンガラ工科大学（１名）、Polyplastics Marketing (T) LTD.（１名）

インド　：インド工科大学マドラス校（４名）、インド工科大学及び国立インディラガンジー原子力研究所（３名）、インド情報・設計・生産技術大学カーンチプラム校及びTata Consultancy Services Japan（１名）

ベトナム　：ハノイ工科大学（４名）、ソリマチベトナム（２名）、N.B.A Trading and Production CO.LTD（１名）、ダナン大学（１名）

マレーシア　：マラ工科大学（３名）、Advantest (Malaysia)Sdn. Bhd.（２名）、マレーシア科学大学（１名）

メキシコ　：モンテレイ大学（２名）、グアナファト大学（１名）

スペイン　：カタルニア工科大学（３名）

オーストラリア：オーストラリア原子力科学技術機構（ANSTO）（２名）

シンガポール　：Experimental Therapeutics Center (ETC)（２名）

フィリピン　：ネクシード（２名）

インドネシア　：PT. MEKAR ARMADA JAYA（１名）

イギリス　：ヨークJEOLナノセンター（１名）

フランス　：リモージュ大学（１名）

ドイツ　　：Schaeffler Technologies AG & Co. KG（１名）
ノルウェー　：ノルウェー産業科学技術研究所（SINTEF）（１名）

（２）グローバルリーダー養成のための短期海外派遣プログラム

本プログラムは､本学における短期海外派遣プログラムのモデルケースとすることにより、海外とのネットワークの構築等に寄与し、本学の国際化を推進することを目的としている。

本学の中長期成長戦略の一つである､イノベーションを牽引できる次世代グローバルリーダーの養成を目的とし、できるだけ多くの学生に海外での経験をしてもらうため、平成23年度に博士後期課程学生を対象とする短期海外派遣プログラムを試行的に実施した。約１か月間という短い派遣期間であったが、派遣後に提出された学生からの報告書によれば、

①自分の研究分野の能力向上
②異分野領域での研究体験による研究の幅の拡大、幅広い分野への応用力の養成
③語学学習に対するモチベーションの向上、外国語によるコミュニケーション能力や異文化適応力の向上

といった成果があがっており、今後の博士後期課程における研究能力及びグローバルリーダーへの資質向上に結びつく効果を上げることができた。

平成24年度以降、プログラムを継続するなかで、対象を修士課程及び５年一貫制博士課程の学生にも拡大し、外国語によるコミュニケーション能力の向上、海外へのチャレンジ精神等グローバル人材に求められる素質・能力の強化のほか、海外の大学等で研究成果を発表することによる学生のプレゼンテーション能力の強化等を目指し、平成29年度は、次のとおり６名を派遣した。

○プログラム概要

対象学生　　：大学院工学研究科に在籍する日本人学生
派遣時期（派遣期間）：平成29年10月～平成30年３月（３ヶ月以上推奨）
大学からの支援　　：海外渡航費・現地滞在費について支援

○平成29年度派遣実績

| 派遣先機関名 | 国・地域 | 学生数 | 期間 |
|---|---|---|---|
| チューリッヒ工科大学 | スイス | １名 | H29.10 ～H30.3 |
| リバプール大学 | イギリス | １名 | H29.12 ～H30.3 |
| ノッティンガム大学マレーシアキャンパス | マレーシア | １名 | H29.12 ～H30.1 |
| カセサート大学 | タイ | １名 | H29.12 ～H29.12 |
| シンクロトロン放射光研究所 | タイ | １名 | H30.1　～H30.3 |
| カーティン大学 | オーストラリア | １名 | H30.1　～H30.3 |

シンクロトロン放射光研究所での様子

（３）その他海外派遣の状況

その他の学生派遣の状況は以下のとおりである。

| 区分 | 派遣先機関名 | 国・地域 | 学生数 | 期間 |
|---|---|---|---|---|
| ダブルディグリー・プログラム | ハノイ工科大学 | ベトナム | １名 | H28.6　～H29.5 |
| 研究指導委託 | マラヤ大学 | マレーシア | １名 | H29.4　～H29.7 |
| 研究指導委託 | インド工科大学マドラス校 | インド | １名 | H29.7　～H30.3 |
| 研究指導委託 | European Commission's Joint Research Centre in Petten | オランダ | １名 | H29.12 ～H29.12 |
| 研究指導委託 | ラジャマンガラ工科大学 | タイ | １名 | H30.2　～H30.2 |
| 研究指導委託 | 燃焼・熱・反応・環境研究所（ICARE）<br>フランス国立科学研究センター（CNRS） | フランス | １名 | H29.11 ～H30.1 |
| 異分野融合型リサーチインターンシップ | スイス連邦工科大学ローザンヌ校 | スイス | １名 | H29.8　～H30.2 |
| 異分野融合型リサーチインターンシップ | 国立清華大学 | 台湾 | １名 | H29.10 ～H30.2 |
| 海外リサーチインターンシップ | リモージュ大学 | フランス | １名 | H29.10 ～H29.12 |
| 海外リサーチインターンシップ | デイトン大学 | アメリカ | １名 | H29.12 ～H30.3 |
| 海外リサーチインターンシップ | キングモンクット工科大学トンブリー校 | タイ | １名 | H29.11 ～H29.12 |
| 海外リサーチインターンシップ | カセサート大学 | タイ | １名※ | H29.12 ～H29.12 |
| 海外リサーチインターンシップ | シンクロトロン放射光研究所 | タイ | １名※ | H30.1 ～H30.3 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 海外リサーチインターンシップ | チュラロンコン大学 | タイ | ２名<br>１名 | H30.1 ～H30.2<br>H30.1 ～H30.3 |
| 海外リサーチインターンシップ | マレーシア日本国際工科院 | マレーシア | １名 | H30.2 ～H30.3 |
| 海外リサーチインターンシップ | コンケーン大学 | タイ | １名 | H30.2 ～H30.3 |
| 学術交流協定校を経由しない派遣 | オーストラリア原子力科学技術機構 | オーストラリア | １名 | H30.1 ～H30.2 |
| 世界展開力事業（インド）短期学生派遣 | インド工科大学マドラス校 | インド | １名<br>１名 | H30.1 ～H30.2<br>H30.1 ～H30.3 |
| 世界展開力事業（メキシコ）中期学生派遣 | モンテレイ大学 | メキシコ | 10名 | H30.1 ～H30.2 |
| 世界展開力事業（メキシコ）短期学生派遣 | ヌエボレオン大学 | メキシコ | ３名 | H30.3 ～H30.3 |
| 海外英語研修プログラム | カーティン大学 | オーストラリア | ６名 | H30.2 ～H30.3 |

※グローバルリーダー養成のための短期派遣プログラムによる派遣を兼ねる。

## ２－６　三機関が連携・協働した教育改革プログラム

長岡技術科学大学・豊橋技術科学大学・国立高等専門学校機構は、平成24年度文部科学省国立大学改革強化推進事業「三機関（長岡技術科学大学，豊橋技術科学大学，国立高等専門学校機構）が連携・協働した教育改革～世界で活躍し、イノベーションを起こす実践的技術者の育成～」に採択された。

平成29年度が事業の最終年度であり、その中で、国際連携センターは、長岡技術科学大学におけるグローバル指向人材育成事業の実施主体として、以下の事項に取り組んだ。

### （１）海外拠点の充実・発展

ASEAN地域における海外実務訓練の拡充を目指し、タイ・タマサート大学内に、経済産業大臣より「ものづくり大使」に任命された本学ＯＢを配置し、現地派遣企業との調整、同行などの海外実務訓練派遣学生のサポート、海外実務訓練派遣先開拓のための企業訪問等を実施した。

メキシコにおいては、現地大学及び現地企業を取り込んだ連携体制の構築並びに双方向の学生交流・共同研究の推進を目的として平成26年８月に開設したモンテレイ大学内のオフィスを拠点とし、プログラムコーディネーターが派遣学生のケア、安全管理、事業の紹介、学生支援の充実（現地企業による財政的サポート）等の業務を実施した。

### （２）卒業生ネットワークの拡充

平成30年１月22日（月）にベトナム・ハノイにて、ハノイ－新潟情報交換会（ハノイ工科大学）における懇親会を、同窓会を兼ねて開催した。

懇親会の様子（ハノイ－新潟情報交換会）

## ≪３≫ 日本語教育事業 活動報告

国際連携センターが実施する日本語教育事業として４つのプログラム（コース）を開講している。また、国際連携センター日本語教員は共通教育センターが開講する正規科目の授業の一部を担当している。

（１）日本語研修コース

大学院入学を目的とした国費の研究留学生、及び短期留学生を対象とした短期集中日本語プログラムで、大学院入学前予備教育プログラムに相当する。

初級レベルの研修コースⅠ（週11コマ、17週）、 初中級レベルの研修コースⅡ（前期週４コマ、後期週５コマ、17週）を前期（４月開始）と後期（10月開始）の年２回開講している。

（２）日本語基礎コース

日本語初級者のための全学日本語クラスで、レベルに応じて「日本語基礎コース１（BASIC 1）」及び「日本語基礎コース２（BASIC 2）」をそれぞれ週４回、「初級漢字クラス（漢字1）」を週２回、それぞれ全17週のコースを１学期（４月開始）と２学期（９月開始）の年２回開講している。

また、平成26年度より受け入れを開始した「大学院社会人留学生コース」の学生の多くが２学期のBASIC 1コースを受講するため、平成28年度より「社留BASICクラス」を増設し、今年度も継続している。

（３）ビジネス日本語入門コース

大学院社会人留学生特別コースのためのビジネス日本語習得を目指した入門クラスを第３学期より週２回開講している。翌年度第１学期まで継続する。

（４）日本語能力試験対策コース

日本語能力試験N1およびN2対策のためのクラスで、第１学期、第２学期にN1対策とN2対策の２クラスを開講し、それぞれのクラスにつき週２コマ（文法、聴解）実施した。また、今年度第２学期には学生の要望に応えN3対策クラスを週２コマ（文法、聴解）試験的に実施した。

（５）日本語・日本語事情科目

学部生を対象とした学部日本語科目、大学院生を対象とした大学院日本語特論科目を共通教育センターが開講しており、国際連携センター日本語教員はその一部を担当している。

（６）その他（ツイニング・プログラム特別クラス）

平成26年度より鄭州大学ツイニング・プログラム（以下、鄭州TP）部会の要請により、９月編入学の新３年生に対し、特別補講として４か月間日本語クラスを開講している。

【各コースの関係】

<table>
<tr><th colspan="2">科目</th><th colspan="2">レベル</th><th colspan="2">開 講 科 目 名</th></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="3">正規科目</td><td colspan="2">上級</td><td colspan="2">日本語III、同IV、日本語特論III、同IV、<br>日本事情Ⅰ、日本事情特論Ⅰ（各１コマ／週＊15 週）</td></tr>
<tr><td rowspan="3">中級</td><td>後半</td><td colspan="2">日本語Ⅱ、日本語特論Ⅱ（各１コマ／週＊15 週）</td></tr>
<tr><td rowspan="3">前半</td><td colspan="2">日本語Ⅰ、日本語特論Ⅰ（各１コマ／週＊15 週）</td></tr>
<tr><td rowspan="6">非正規科目</td><td colspan="2">日本語研修コースⅡ（2 コマ／週＊17 週）（後期は３コマ／週＊17 週）</td></tr>
<tr><td colspan="2">漢字 2（初中級）（2 コマ／週＊17 週）</td></tr>
<tr><td rowspan="3">初級</td><td>後半</td><td>BASIC 2<br>（4 コマ／週＊19 週）</td><td rowspan="2">日本語研修コースⅠ（11 コマ／週＊17 週）<br>（Intensive Japanese Course Ⅰ）</td></tr>
<tr><td>入門</td><td>BASIC 1、社留 BASIC<br>（各 4 コマ／週＊19 週）</td></tr>
<tr><td colspan="2">漢字 1（初級）（2 コマ／週＊17 週）</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">JLPT<br>受験対策</td><td colspan="2">JLPT N1（各 2 コマ／週＊10 週）</td></tr>
<tr><td colspan="2">JLPT N2（各 2 コマ／週＊10 週）</td></tr>
<tr><td colspan="2">中級後半</td><td colspan="2">鄭州ツイニング・プログラム特別クラス（２コマ／週＊15 週）</td></tr>
</table>

## ３―１　日本語研修コース

コース担当：永野 建二郎

平成 14 年に留学生センターが開設されて以来、本学では大学院入学を目的とした国費の研究生及び短期留学生を対象に短期集中プログラムを開講し、１年に２回実施している。

開講期間は前期（４月から８月初旬）・後期（10 月から２月中旬）ともに 17 週で、研修コースⅠ（初級レベル 週 11 コマ）、 研修コースⅡ(初級修了レベル 週４コマ）となっている。

平成 29 年度前期

１．コース概要

Ａ．研修コースⅠ（初級クラス）

【担当教員】専任教員　　永野 建二郎
　　特任教員　　片野 洋平
　　非常勤講師　原口 こずえ

【授業期間、授業時間数】

４月～８月初旬に渡って開講。17 週各週 11 コマ、計 185 コマ（約 278 時間）

【授業目的】

① 日常生活に必要なコミュニケーション能力を養成し、以後の専門教育への橋渡しを行う。

② 自律的に日本語を学習することができるようになるための基礎的な能力を養う。

【教科書】

・『ひとりで学べるひらがな・かたかな』スリーエーネットワーク
・『日本語初級１　大地』スリーエーネットワーク
・『日本語初級２　大地』スリーエーネットワーク

Ｂ．研修コースⅡ（初中級クラス）

【担当教員】専任教員　永野 建二郎（文法・会話）
　　特任教員　片野 洋平（漢字）

【授業期間、授業時間数】

４月～８月初旬に渡って開講。17 週各週４コマ、計 68 コマ（約 102 時間）

【授業目的】

① 初級で学習した文法・文型を用い、場面にふさわしい表現でコミュニケーションがとれる能力を養成する。

② 自律的に日本語を学習することができるようになるための基礎的な能力を養う。

【教科書】

・『中級へ行こう―日本語の文型と表現 59』スリーエーネットワーク
・『BASIC KANJI BOOK Vol.2』凡人社

２．時間割

| コース | 時限 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 研修Ⅰ | 1 | 初級<br>文法・会話<br>（片野） | 初級<br>文法・会話<br>（原口） | 初級<br>文法・会話<br>（片野） | 初級<br>文法・会話<br>（永野） | 初級<br>文法・会話<br>（原口） |
| | 2 | 初級<br>文法・会話<br>（片野） | 初級<br>文法・会話<br>（原口） | 初級<br>文法・会話<br>（片野） | 初級<br>文法・会話<br>（永野） | 初級<br>文法・会話<br>（原口） |
| | 3 | | 初級<br>Project Work<br>(永野･片野) | | | |
| 研修Ⅱ | 4 | | 初中級<br>文法・会話<br>(永野) | | 初中級<br>文法・会話<br>（永野） | |
| | 5 | | 初中級<br>漢字<br>（片野） | | 初中級<br>漢字<br>（片野） | |

平成 29 年度後期

２．コース概要

Ａ．研修コースⅠ（初級クラス）

【担当教員】専任教員　　永野 建二郎
　　専任教員　　岩井 智重
　　特任教員　　片野 洋平
　　非常勤講師　原口 こずえ

【授業期間、授業時間数】

10 月～２月中旬に渡って開講。17 週各週 11 コマ、計 185 コマ（約 278 時間）

【授業目的】

① 日常生活に必要なコミュニケーション能力を養成し、以後の専門教育への橋渡しを行う。

② 自律的に日本語を学習することができるようになるための基礎的な能力を養う。

【教科書】

・『ひとりで学べるひらがな・かたかな』スリーエーネットワーク
・『日本語初級１　大地』スリーエーネットワーク
・『日本語初級２　大地』スリーエーネットワーク

Ｂ．研修コースⅡ（初中級クラス）

【担当教員】専任教員　永野 建二郎（文法・会話）

特任教員　片野 洋平（漢字）

【授業期間、授業時間数】

10 月～２月中旬に渡って開講。17 週各週 5 コマ、計 85 コマ（約 128 時間）

【授業目的】

① 文法・文型を用い、場面にふさわしい表現でコミュニケーションがとれる能力を養成する。

② 自律的に日本語を学習することができるようになるための基礎的な能力を養う。

③ 初級で学習した漢字の様々な読みを学び、中級漢字 300 字の読み書きを習得する。

【教科書】

・『中級へ行こう―日本語の文型と表現 59』スリーエーネットワーク

・『BASIC KANJI BOOK Vol.2』凡人社

２．時間割

| コース | 時限 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 研修Ⅰ | 1 | 初級<br>文法・会話<br>（片野） | 初級<br>文法・会話<br>（原口） | 初級<br>文法・会話<br>（岩井） | 初級<br>文法・会話<br>（永野） | 初級<br>文法・会話<br>（原口） |
| | 2 | 初級<br>文法・会話<br>（片野） | 初級<br>文法・会話<br>（原口） | 初級<br>文法・会話<br>（岩井） | 初級<br>文法・会話<br>（永野） | 初級<br>文法・会話<br>（原口） |
| | 3 | | 初級<br>Project Work<br>(永野･片野) | | | |
| 研修Ⅱ | 4 | | 初中級<br>文法・会話<br>(永野) | 初中級<br>文法・会話<br>(永野) | 初中級<br>文法・会話<br>（永野） | |
| | 5 | | 初中級<br>漢字<br>（片野） | | 初中級<br>漢字<br>（片野） | |

# ３－２　日本語基礎コース

担当：リー飯塚 尚子

日本語基礎コースは、留学生を対象に初級レベルの BASIC 1、BASIC 2 の２つのコースに分かれ、各コースともに、１学期～３学期に週４回開講されている。BASIC 2 については、４月と９月のコース開始前に受講希望者を対象にプレースメントテストを実施し、テスト結果をもとにクラス分けを行っている。また、初級漢字クラス（漢字 1）も開講している。

さらに、２学期には大学院社会人留学生コースの学生を対象とした「社留 BASIC」コースを開講している。

平成 29 年度１学期

## １．コース概要

【担当教員】専任教員　　リー飯塚 尚子
非常勤講師　近藤 優美、涌井 祐子、小林 律子、原口 こずえ（研修コース兼任）
特任教員　　片野 洋平（研修コース兼任）

【授業目的】

BASIC 1　日本語未習者を対象に初級日本語教科書を用いて最低限の文型と語彙導入・練習することで初級レベルの日本語運用能力を養成する。

BASIC 2　初級修了レベルの日本語運用能力を養成する。

初級漢字　300 字の漢字が書けるようになること、390 字が読めるようになること、漢字語彙 660 語が理解できるようになることを目指す。

【教科書】

BASIC 1
・『ひとりで学べるひらがな・かたかな』スリーエーネットワーク
・『初級日本語げんきⅠ』The Japan Times
BASIC 2
・『初級日本語げんきⅡ』The Japan Times
漢字１
・『留学生のための漢字の教科書初級 300』国書刊行会

## ２．時間割

| 時限 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 |
|---|---|---|---|---|---|
| 2 | BASIC 1<br>（涌井） | BASIC 1<br>（リー飯塚） | BASIC 1<br>（近藤） | BASIC 1<br>（小林） | |
| 3 | BASIC 2<br>（涌井） | | BASIC 2<br>（近藤） | BASIC 2<br>（小林） | |
| 4 | | BASIC 2<br>（リー飯塚） | 初級漢字<br>（片野） | | 初級漢字<br>（原口） |

平成 29 年度２・３学期

## １．コース概要

【担当教員】専任教員　リー飯塚 尚子 、岩井 智重
非常勤講師　近藤 優美、小林 律子、原口 こずえ（研修コース兼任）
特任教員　　片野 洋平（研修コース兼任）

【授業目的】

BASIC 1　日本語未習者を対象に初級日本語教科書を用いて最低限の文型と語彙導入・練習することで初級レベルの日本語運用能力を養成する。

BASIC 2　初級修了レベルの日本語運用能力を養成する。

初級漢字 300 字の漢字が書けるようになること、390 字が読めるようになること、漢字語彙 660 語が理解できるようになることを目指す。

【教科書】

BASIC 1

・『ひとりで学べるひらがな・かたかな』スリーエーネットワーク

・『初級日本語げんきⅠ』The Japan Times

BASIC 2

・『初級日本語げんきⅡ』The Japan Times

漢字１

・『留学生のための漢字の教科書初級 300』国書刊行会

## ２．時間割

| 時限 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 社留 BASIC<br>（岩井） | 社留 BASIC<br>（片野） | 社留 BASIC<br>（近藤） | | 社留 BASIC<br>（片野） |
| 2 | BASIC 1<br>（片野） | BASIC 1<br>（片野） | BASIC 1<br>（近藤） | BASIC 1<br>（リー飯塚） | |
| 3 | BASIC 2<br>（片野） | BASIC 2<br>（片野） | BASIC 2<br>（近藤） | | |
| 4 | | | 初級漢字<br>（片野） | BASIC 2<br>（リー飯塚） | 初級漢字<br>（原口） |

# ３－３　ビジネス日本語入門

担当：リー飯塚 尚子
永野 建二郎

「大学院社会人留学生特別コース」で実施している日本企業等でのインターンシップに参加するための予備教育として、毎年度第３学期～翌年度第１学期に、本コース学生のための「ビジネス日本語入門」科目を開講している。なお、これに先立ち、履修希望者は「日本語基礎コース１」を修了することが受講条件となっている。

平成 29 年度１学期

１．コース概要

【担当教員】特任教員　片野 洋平

【授業目的】初級前半レベルの学生を対象に、ビジネス日本語の基礎および基本的なビジネスマナーの習得を目指す。前年度からの継続クラスとして開講している。

【教科書】

・『にほんごで働く！ビジネス日本語 30 時間』スリーエーネットワーク
・『わかるビジネス日本語新装版』アスク出版
・『ビジネス日本語 Drills』UNICOM Inc.

２．時間割

| 時限 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 |
|---|---|---|---|---|---|
| 5 | | | ビジネス日本語入門（片野） | | ビジネス日本語入門（片野） |

平成 29 年度３学期

１．コース概要

【担当教員】特任教員　片野 洋平

【授業目的】初級前半レベルの学生を対象に、ビジネス日本語の基礎および基本的なビジネスマナーの習得を目指す。３学期終了後、継続して次年度の１学期に開講している。

【教科書】

・『にほんごで働く！ビジネス日本語 30 時間』スリーエーネットワーク
・『わかるビジネス日本語新装版』アスク出版

・『ビジネス日本語 Drills』UNICOM Inc.

２．時間割

| 時限 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 |
|---|---|---|---|---|---|
| 5 | | | ビジネス<br>日本語入門<br>（片野） | | ビジネス<br>日本語入門<br>（片野） |

## ３－４　日本語能力試験対策クラス

担当：リー飯塚 尚子
永野 建二郎

平成 29 年度は、日本語能力試験 N1 及び N2 レベルの受験者を対象に、第１学期、第２学期に N1 対策と N2 対策の２クラスを開講し、それぞれのクラスにつき週２回（文法１回、聴解１回）実施した。また、今年度第２学期には学生の要望に応え N3 対策クラスを週２コマ（文法、聴解）試験的に実施した。

平成 29 年度１学期

１．コース概要

【担当教員】専任教員　リー飯塚 尚子
専任教員　永野 建二郎
特任教員　片野 洋平

【授業目的】日本語能力試験 N1/N2 レベルの合格を目指す。

【教科書】

Ｎ１

・『日本語能力試験対策 N1 文法総まとめ』三修社
・『日本語能力試験対策 N1 文法問題集』三修社
・『新完全マスターN1 聴解』スリーエーネットワーク

Ｎ２

・『日本語能力試験対策 N2 文法総まとめ』三修社
・『日本語能力試験対策 N2 文法問題集』三修社
・『新完全マスターN2 聴解』スリーエーネットワーク
・『新完全マスターN2 聴解』スリーエーネットワーク

２．時間割

| 時限 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 |
|---|---|---|---|---|---|
| 4 | | | N1 対策<br>文法<br>（永野） | | N2 対策<br>聴解<br>（片野） |
| 5 | N1 対策<br>聴解<br>（片野） | | | N2 対策<br>文法<br>（リー飯塚） | |

平成 29 年度 2 学期

１．コース概要

【担当教員】専任教員　リー飯塚 尚子
専任教員　永野 建二郎
専任教員　岩井 智重
特任教員　片野 洋平

【授業目的】日本語能力試験 N1／N2／N3 レベルの合格を目指す。

【教科書】

Ｎ１

・『日本語能力試験対策 N1 文法総まとめ』三修社
・『日本語能力試験対策 N1 文法問題集』三修社
・『新完全マスターN1 聴解』スリーエーネットワーク

Ｎ２

・『日本語能力試験対策 N2 文法総まとめ』三修社
・『日本語能力試験対策 N2 文法問題集』三修社
・『新完全マスターN2 聴解』スリーエーネットワーク

Ｎ３

・『耳から覚える日本語能力試験文法トレーニング N3』アルク
・『耳から覚える日本語能力試験聴解トレーニング N3』アルク

２．時間割

| 時限 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 |
|---|---|---|---|---|---|
| 4 | N3 対策<br>文法<br>（岩井） | N2 対策<br>文法<br>（リー飯塚） | | | N3 対策<br>聴解<br>（岩井） |
| 5 | N2 対策<br>聴解<br>（片野） | | N1 対策<br>文法<br>（リー飯塚） | | N1 対策<br>聴解<br>（片野） |

## ３－５　日本語・日本事情科目（学部・大学院）

（共通教育センター開講科目）
担当：加納　満（共通教育センター）

本学では、外国人留学生を対象に正規科目として日本語・日本事情科目と日本語特論・日本事情特論科目をそれぞれ、学部と大学院に設置している。各学期に日本語科目は８単位、日本事情科目は４単位、年間 12 単位開講されている。

学部第１学年入学者及び第３学年入学者は、日本語科目で修得した単位のうち、２単位を外国語科目として代替できる。ただし教養科目については、第１学年入学者の場合、日本語科目および日本事情科目で修得した単位のうち、第二外国語科目に代替した日本語科目２単位以外の単位 10 単位を限度として教養科目の単位として代替できるのに対して、第３学年入学者の場合、４単位を限度として教養科目の単位として代替できる。

大学院の場合、日本語特論科目及び日本事情特論科目で修得した単位のうち、２単位まで共通科目の単位として代替できる。

本年度開講科目とレベルの対応関係は以下のとおりである。

| 学部 | 大学院 |
|---|---|
| 日本語Ⅰ（中級入門） | 日本語特論Ⅰ（中級入門） |
| 日本語Ⅱ（中上級） | 日本語特論Ⅱ（中級前半） |
| 日本語Ⅲ（上級） | 日本語特論Ⅲ（中級後半） |
| 日本語Ⅳ（上級） | 日本語特論Ⅳ（上級） |
| 日本事情Ⅰ（上級） | 日本事情特論Ⅰ（上級） |

上記の科目を履修する場合、履修申告前に必ず日本語プレースメントテストを受けなければならない。

なお、平成 23 年度から日本語・日本事情科目の担当は、共通教育センターの管轄となり、国際連携センター所属のリー飯塚尚子教員及び永野建二郎教員は、原則として大学院対象の「日本語特論」のみを担当することとなった。

以下、本年報では時間割のみ提示する。

平成 29 年度１学期

時間割

<table>
<tr><th>時限</th><th>火</th><th>水</th><th>木</th></tr>
<tr><td rowspan="2">1</td><td>日本語Ⅰ－１<br>（加納）</td><td></td><td>日本事情Ⅰ－１<br>（柴崎）</td></tr>
<tr><td>日本語特論Ⅰ－１<br>（柴崎）</td><td>日本語特論Ⅱ－１<br>（リー飯塚）</td><td>日本事情特論Ⅰ－１<br>（加納）</td></tr>
<tr><td rowspan="3">2</td><td rowspan="3">日本語特論Ⅳ－１<br>（加納）</td><td>日本語Ⅱ－１<br>（柴崎）</td><td rowspan="3">日本語Ⅳ－１<br>（柴崎）</td></tr>
<tr><td>日本語Ⅲ－１<br>（加納）</td></tr>
<tr><td>日本語特論Ⅲ－１<br>（永野）</td></tr>
</table>

平成 29 年度２学期

時間割

<table>
<tr><th>時限</th><th>火</th><th>水</th><th>木</th></tr>
<tr><td rowspan="2">1</td><td>日本語Ⅰ－２<br>（柴崎）</td><td>日本語Ⅱ－２<br>（加納）</td><td>日本事情Ⅰ－２<br>（加納）</td></tr>
<tr><td>日本語特論Ⅰ－２<br>（加納）</td><td>日本語特論Ⅱ－２<br>（柴崎）</td><td>日本語特論Ⅲ－２<br>（永野）</td></tr>
<tr><td rowspan="2">2</td><td rowspan="2">日本語特論Ⅳ－２<br>（リー飯塚）</td><td>日本語Ⅲ－２<br>（加納）</td><td rowspan="2">日本語Ⅳ－２<br>（柴崎）</td></tr>
<tr><td>日本事情特論Ⅰ－２<br>（柴崎）</td></tr>
</table>

# ３－６　日本語関連科目　開講時間割

本学で開講している日本語関連の科目、コースをまとめると、以下のようになる。

平成 29 年度１学期

| 時限 | 区分 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1限<br>8:50<br>～<br>10:20 | 研修 | 初級 会話/文法<br>片野 | 初級 会話/文法<br>原口 | 初級 会話/文法<br>片野 | 初級 会話/文法<br>永野 | 初級 会話/文法<br>原口 |
| | 学部 | | 日本語Ⅰ-1<br>加納 | | 日本事情Ⅰ-1<br>柴崎 | |
| | 修士 | | 日本語特論Ⅰ-1<br>柴崎 | 日本語特論Ⅱ-1<br>リー飯塚 | 日本事情特論Ⅰ-1<br>加納 | |
| 2限<br>10:30<br>～<br>12:00 | 基礎 | Basic 1<br>涌井 | Basic 1<br>リー飯塚 | Basic 1<br>近藤 | Basic 1<br>小林 | |
| | 研修 | 初級 会話/文法<br>片野 | 初級 会話/文法<br>原口 | 初級 会話/文法<br>片野 | 初級 会話/文法<br>永野 | 初級 会話/文法<br>原口 |
| | 学部 | | | 日本語Ⅱ-1<br>柴崎 | | |
| | | | | 日本語Ⅲ-1<br>加納 | 日本語Ⅳ-1<br>柴崎 | |
| | 修士 | | 日本語特論Ⅳ-1<br>加納 | 日本語特論Ⅲ-1<br>永野 | | |
| | 教養科目 | | | | ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ<br>リー飯塚 | |
| 3限<br>13:00<br>～<br>14:30 | 基礎 | Basic 2<br>涌井 | | Basic 2<br>近藤 | Basic 2<br>小林 | |
| | 研修 | | 初級 PW<br>片野 | | | |
| 4限<br>14:40<br>～<br>16:10 | 基礎 | | Basic 2<br>リー飯塚 | | | |
| | 漢字 | | | 初級漢字<br>片野 | | 初級漢字<br>原口 |
| | 研修 | | 初中級<br>永野 | | 初中級<br>永野 | |
| | JLPT | | | N1 文法<br>永野 | | N2聴解<br>片野 |
| 5限<br>16:20<br>～<br>17:50 | 漢字 | | 中級漢字<br>片野 | | 中級漢字<br>片野 | |
| | JLPT | N1 聴解<br>片野 | | | N2文法<br>リー飯塚 | |
| | ビジネス<br>(社留) | | | ﾋﾞｼﾞﾈｽ日本語入門<br>片野 | | ﾋﾞｼﾞﾈｽ日本語入門<br>片野 |

**共通教育センター開講科目**

平成 29 年度 2 学期

| 時限 | 区分 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1限<br>8:50<br>～<br>10:20 | 基礎 | 社留 Basic 1<br>岩井 | 社留 Basic 1<br>片野 | 社留 Basic 1<br>近藤 | | 社留 Basic 1<br>片野 |
| | 研修 | 会話/文法<br>片野 | 会話/文法<br>原口 | 会話/文法<br>岩井 | 会話/文法<br>永野 | 会話/文法<br>原口 |
| | 学部 | | 日本語Ⅰ-2<br>柴崎 | 日本語Ⅱ-2<br>加納 | 日本事情Ⅰ-2<br>加納 | |
| | 修士 | | 日本語特論Ⅰ-2<br>加納 | 日本語特論Ⅱ-2<br>柴崎 | | 日本語特論Ⅲ-2<br>永野 |
| 2限<br>10:30<br>～<br>12:00 | 基礎 | Basic 1<br>小林 | Basic 1<br>片野 | Basic 1<br>近藤 | Basic 1<br>リー飯塚 | |
| | 研修 | 会話/文法<br>片野 | 会話/文法<br>原口 | 会話/文法<br>岩井 | 会話/文法<br>永野 | 会話/文法<br>原口 |
| | 学部 | | | 日本語Ⅲ-2<br>加納 | 日本語Ⅳ-2<br>柴崎 | |
| | 修士 | | 日本語特論Ⅳ-2<br>リー飯塚 | 日本事情特論Ⅰ-2<br>柴崎 | | |
| | 教養科目 | | 言語と科学<br>柴崎／加納 | | | |
| 3限<br>13:00<br>～<br>14:30 | 基礎 | Basic 2<br>小林 | Basic 2<br>片野 | Basic 2<br>近藤 | | |
| | 研修 | | | | 会話／文法 PW<br>片野 | |
| 4限<br>14:40<br>～<br>16:10 | 基礎 | | | | Basic 2<br>リー飯塚 | |
| | 漢字 | | | 初級漢字<br>片野 | | 初級漢字<br>原口 |
| | 研修 | | 研修2<br>永野 | 研修2<br>永野 | 研修2<br>永野 | |
| | JLPT | N3文法<br>岩井 | N2文法<br>リー飯塚 | | | N3聴解<br>岩井 |
| 5限<br>16:20<br>～<br>17:50 | 漢字 | | 中級漢字<br>片野 | | 中級漢字<br>片野 | |
| | JLPT | N2聴解<br>片野 | | N1文法<br>リー飯塚 | | N1聴解<br>片野 |
| | TP | | 鄭州 TP<br>永野 | | 鄭州 TP<br>永野 | |

**共通教育センター<br>開講科目**

# ≪4≫ 留学生支援事業・地域交流事業

本学では、日本事情の理解又は国際交流活動を目的とした事業を企画・実施しており、地域の国際交流行事への積極的な参加を留学生に勧め、地域との交流を図っている。

## ４－１　留学生相談

留学生からの健康面や学習面、トラブル等の相談窓口となり、ケースによっては本人の了解をもとに学内各相談窓口へ橋渡しをしている。

## ４－２　留学生行事

日本の伝統・自然風土・歴史・食文化・産業等の社会状況を見聞・体験することにより、日本文化の知識を深め、日常の教育・研究等の一助となることを目的として行っている。

| 行事名 | 期間 | 訪問先 |
|---|---|---|
| 外国人留学生等見学旅行 | 平成29年<br>10月21日～22日 | 一古園、山梨県立リニア見学センター、富士山レーダードーム館、富士山五合目<br>参加者数　77 名　引率３名 |
| ホームステイ | 平成29年12月31日～30年１月９日までの２日間 | 長岡市及び周辺地域の家庭<br>参加者数 26名　受入家庭 20世帯 |
| 外国人留学生等スキー研修 | 平成30年２月15日 | 須原スキー場<br>参加者数　37名　引率３名 |

## ４－３　留学生会

留学生間及び、日本人との親睦を図り、相互理解をより深めることを目的とし、スポーツ、文化、及び学問的な活動に関する情報交換を通して、お互いに助け合える国際的な「家族」を作るために、留学生により結成された。

お花見や国際祭り等の行事の企画・実施を留学生自らが行い、数多くの交流の機会を提供している。

| 行事名 | 実施月 | 場所 |
|---|---|---|
| お花見 | 平成29年４月 | 学内　桜通り |
| 長岡花火 | 平成29年８月 | 信濃川河川敷 |
| 国際祭り | 平成29年９月 | 技大祭と同時開催<br>模擬店、パフォーマンス |
| バーベキュー | 平成29年10月 | 学内　桜通り |
| ハロウィーンパーティ | 平成29年10月 | 本学セコムホール |

## ４－４　地域交流事業

### （１）留学生等交流懇談会

学内外の支援者や関係者及び留学生の交流機会として、毎年、本学主催の留学生等交流懇談会を実施し、留学生生活全般に係る情報・意見交換を行い相互理解、親睦を深めている。

実　施　日：平成 29 年 11 月 15 日（水）
会　　場：本学セコムホール
学内参加者数： 232 名（うち留学生〔及び家族・友人〕196 名）
来　　賓：　39 名

### （２）地域との連携

長岡市内、近隣市内の小中学校や団体の要請に応じ、本学留学生を学習会や国際交流の授業へ講師として派遣を行った。また、地域の国際交流イベントを案内し、積極的に参加を促している。

【29 年度実施】

| 行事名 | 参加形態 | 主催 | 対象 |
|---|---|---|---|
| 上越高校講演会 | 講演者 | 上越高校 | 上越高校生 |
| 新大附属長岡中学校　英語授業 | 授業ｻﾎﾟｰﾀｰ | 新大附属長岡中学校 | 新大附属中学生 |
| 見附市　ダナン市訪問団ウェルカム・パーティー | 参加 | 見附市まちづくり課市民活動係 | 訪問団及び見附市内関係者 |
| 見附市交流事業『寿学級』 | 講師 | 見附市中央公民館 | いきいき高齢者 |
| 長岡高校スーパーサイエンスハイスクール発表会 | 参加 | 長岡高校 | 長岡高校生 |

| 行事名 | 参加形態 | 主催 | 対象 |
|---|---|---|---|
| 県立新発田高校マレーシア留学生との交流会 | 交流者 | 新発田高校 | 新発田高校生 |
| 柏崎高校スーパーサイエンスハイスクール交流会 | 講師 | 柏崎高校 | 柏崎高校生 |
| 刈羽小学校国際セミナー | 講師 | 刈羽小学校 | 刈羽小学生 |
| 才津小学校　国際交流授業 | 講師 | 才津小学校 | 才津小学生 |
| 見附市ニット工場見学ツアー | 参加 | 見附市国際交流協会 | 本学留学生 |
| 長岡まつり大民謡流し | 参加 | NUT 学生支援課 | 本学学生・教職員・その家族 |
| 第 30 回世界留学生交流『JAPAN TENT』 | 参加 | JAPAN TENT 開催委員会 | 石川県民、全国から 300 名の留学生 |
| 第８回王寺川地域国際交流会『稲刈りと遊び交流会』 | 参加 | 王寺川コミュニティセンター | 地域住民 |

# ≪５≫ 国際連携センター刊行物等の状況

## ５－１　国際連携センター刊行物等

現在、国際連携センターでは、以下の刊行物を発行している。

（１）工学用語辞書（８言語）

・日越工学用語辞典（春風社より出版）

・日本語－マレー語工学用語辞典、日本語－タイ語工学用語辞典、日本語－スペイン語工学用語辞典、日本語－中国語工学用語辞典、日本語－韓国語工学用語辞典、日本語－インドネシア語工学用語辞典、日本語－モンゴル語工学用語辞典（以上、あかつき印刷株式会社より仮出版）

（２）新しい日本語教育教材、PJ工学基礎教科書、研修テキスト等

・機械工学で学ぶ中級日本語（リー飯塚尚子・上村靖司編著）

・機械工学で学ぶ中級日本語２（リー飯塚尚子・上村靖司編著）

・建設工学で学ぶ中級日本語１（リー飯塚尚子、永野建二郎、高橋修編著）

・建設工学で学ぶ中級日本語２（リー飯塚尚子、永野建二郎、高橋修編著）

・はじめて工学を学ぶ留学生のためのにほんご練習帳(上村靖司・リー飯塚尚子編著)

・歴史と人物に学ぶ技術者の責任（三上喜貴著）

・連続体力学の基礎（永澤茂・古口日出男著）

・はじめての集中講義物語（上村靖司著）

・はじめての集中講義物語２（上村靖司著）

・ＵＤ流！文章術（児玉茂昭著）

（３）パンフレット

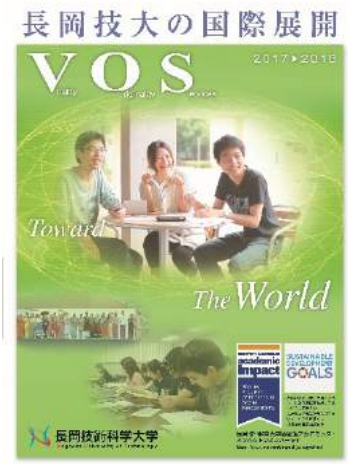
・長岡技大の国際展開（年１回発行）〔和文・英文〕
・ツイニング・プログラムパンフレット〔和文・英文〕
・大学院社会人留学生特別コースパンフレット〔和文・英文〕
・大学の世界展開力強化事業「長期インターンシップ実績を活用した南インドとの共同実践的技術者教育プログラム」パンフレット〔和文・英文〕
・大学の世界展開力強化事業「NAFTA生産拠点メキシコとの協働による15歳に始まる技術者教育モデルの世界展開」パンフレット〔和文・英文〕

（４）留学生のためのガイドブック（年１回発行）〔和英併記〕

留学生の入国から帰国後のフォローアップまで留学に必要な情報（渡日前情報、入学手続、生活情報、学習環境、滞在手続等）を提供するために作成している。

（５）その他

・長岡技術科学大学ツイニング・プログラムの実施状況報告書〔和文・英文〕



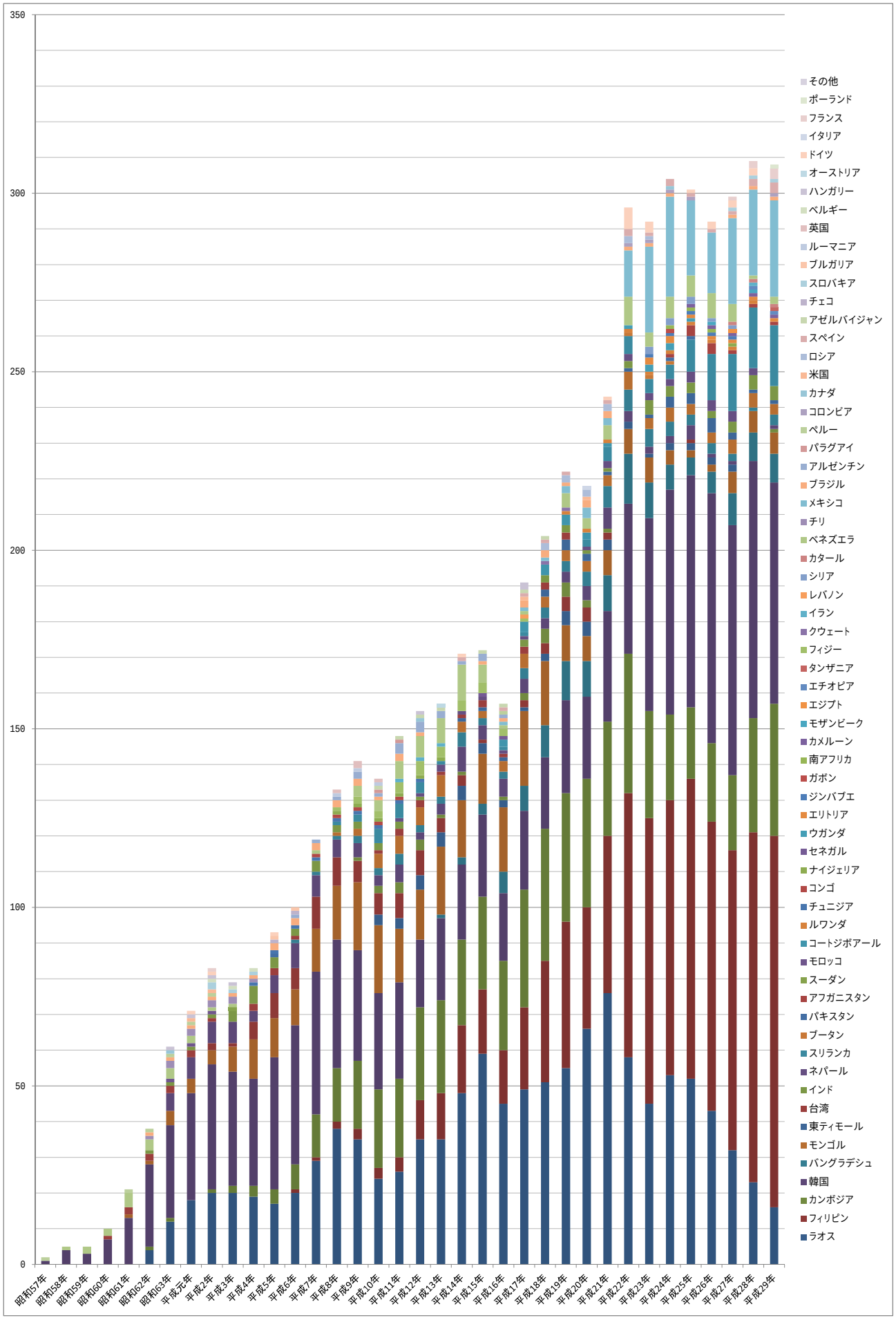
# 資　料

# 外国人留学生数一覧 The Enrollment of International Students

2017年5月1日現在 as of May 1st, 2017 * ( )は女子で内数 re-marking of female

| | 区分 Status / 国･地域等 Country ･Area | 学部正規生 Under-Graduate Students | 大学院正規生 Graduate Students | | | | 研究生 Research Students (non-degree) | 特別研究学生 Short-Term Exchange Students (non-degree) | 特別聴講学生 Short-Term Exchange Students (non-degree) | 合計 TOTAL |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 修士課程 Master's Program | 博士後期課程 Doctoral Program | 5年一貫制博士課程 5-Year Integrated Doctral Program | 専門職学位課程 Professional Degree Course | | | | |
| 1 | ベトナム/ Vietnam | 41 (3) | 33 (3) | 25 (8) | 3 (1) | | 2 | | | 104 (15) |
| 2 | 中 国 / China | 26 (7) | 16 (2) | 12 (6) | 1 (1) | | 3 (1) | | 4 (1) | 62 (18) |
| 3 | タ イ / Thailand | | 9 (6) | 17 (9) | 2 (2) | | | 1 (1) | 8 (3) | 37 (21) |
| 4 | メキシコ / Mexico | 13 (1) | 11 | 2 (1) | | | | | 1 | 27 (2) |
| 5 | スリランカ / Sri Lanka | | 4 (2) | 13 (8) | | | | | | 17 (10) |
| 6 | マレーシア / Malaysia | 11 (8) | | 3 (2) | 1 (1) | | | | 1 | 16 (11) |
| 7 | ミャンマー / Myanmar | | 3 (2) | 4 (3) | | | 1 (1) | | | 8 (6) |
| 8 | インドネシア / Indonesia | 2 | 2 | 1 | | | | | 1 | 6 |
| 9 | インド / India | | 1 | 3 (1) | | | | | | 4 (1) |
| 10 | スペイン / Spain | | | | | | | | 3 (1) | 3 (1) |
| 11 | フランス /France | | | | | | | | 3 | 3 |
| 12 | モンゴル / Mongolia | | 2 (1) | 1 | | | | | | 3 (1) |
| 13 | バングラデシュ / Bangladesh | | 2 | 1 | | | | | | 3 |
| 14 | ベネズエラ / Venezuela | | | 1 | | | 1 | | | 2 |
| 15 | 韓国 / Korea | | | | | | 1 | | | 1 |
| 16 | カンボジア / Cambodia | 1 | | | | | | | | 1 |
| 17 | 東ティモール / East Timor | | | | | | 1 | | | 1 |
| 18 | ブラジル / Brazil | | 1 | | | | | | | 1 |
| 19 | エリトリア/ Eritrea | | | 1 | | | | | | 1 |
| 20 | カメルーン / Cameroon | | | 1 | | | | | | 1 |
| 21 | アフガニスタン / Afghanistan | | | 1 | | | | | | 1 |
| 22 | カタール / Qatar | | 1 (1) | | | | | | | 1 (1) |
| 23 | ポーランド / Poland | 1 (1) | | | | | | | | 1 (1) |
| 24 | スロバキア / Slovak | | | 1 (1) | | | | | | 1 (1) |
| 25 | エチオピア / Ethiopia | | 1 | | | | | | | 1 |
| 26 | タンザニア / Tanzania | | 1 | | | | | | | 1 |
| 27 | コロンビア / Colombia | | | | | | | 1 (1) | | 1 (1) |
| | 合 計 / TOTAL | 95 (20) | 87 (17) | 87 (39) | 7 (5) | | 9 (2) | 2 (2) | 21 (5) | 308 (90) |

# 外国人留学生数推移表


350
300
250
200
150
100
50
0
昭和57年
昭和58年
昭和59年
昭和60年
昭和61年
昭和62年
昭和63年
平成元年
平成2年
平成3年
平成4年
平成5年
平成6年
平成7年
平成8年
平成9年
平成10年
平成11年
平成12年
平成13年
平成14年
平成15年
平成16年
平成17年
平成18年
平成19年
平成20年
平成21年
平成22年
平成23年
平成24年
平成25年
平成26年
平成27年
平成28年
平成29年
その他
ポーランド
フランス
イタリア
ドイツ
オーストリア
ハンガリー
ベルギー
英国
ルーマニア
ブルガリア
スロバキア
チェコ
アゼルバイジャン
スペイン
ロシア
米国
カナダ
コロンビア
ペルー
パラグアイ
アルゼンチン
ブラジル
メキシコ
チリ
ベネズエラ
カタール
シリア
レバノン
イラン
クウェート
フィジー
タンザニア
エチオピア
エジプト
モザンビーク
カメルーン
南アフリカ
ガボン
ジンバブエ
エリトリア
ウガンダ
セネガル
ナイジェリア
コンゴ
チュニジア
ルワンダ
コートジボアール
モロッコ
スーダン
アフガニスタン
パキスタン
ブータン
スリランカ
ネパール
インド
台湾
東ティモール
モンゴル
バングラデシュ
韓国
カンボジア
フィリピン
ラオス

## 民間団体等奨学金受給状況（推移）

| | | H10 | H11 | H12 | H13 | H14 | H15 | H16 | H17 | H18 | H19 | H20 | H21 | H22 | H23 | H24 | H25 | H26 | H27 | H28 | H29 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 日本学生支援機構 | 学部 | 11 | 15 | 11 | 8 | 10 | 9 | 5 | 7 | 7 | 7 | 5 | 12 | 15 | 17 | 9 | 11 | 7 | 4 | 7 | 12 |
| （旧：日本国際教育協会） | 大学院 | 11 | 8 | 12 | 10 | 8 | 6 | 6 | 9 | 10 | 12 | 11 | 24 | 11 | 11 | 9 | 6 | 6 | 10 | 14 | 20 |
| ﾛｰﾀﾘｰ米山記念奨学会 | 学部 | 9 | 5 | 3 | 1 | 3 | 3 | 1 | 2 | | 3 | 2 | 1 | | | 3 | 2 | | | 1 | |
| | 大学院 | 4 | 6 | 10 | 7 | 3 | 3 | 5 | 4 | 7 | 5 | 5 | 7 | 7 | 6 | 3 | 4 | 6 | 7 | 4 | 4 |
| ﾋﾛｾ国際奨学財団 | 学部 | 1 | | 1 | | | | 1 | | | | 1 | | | | | | | | | |
| | 大学院 | | 1 | | 1 | 1 | 1 | | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | | | | | 2 | 2 | 5 |
| 伊藤謝恩育英財団 | 学部 | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 大学院 | 1 | 2 | 1 | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 牧田国際育英会 | 学部 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 大学院 | 1 | | 1 | 1 | 2 | 1 | 1 | 1 | | | | | | | | | | | | |
| 佐川留学生奨学会 | 学部 | | 1 | | | | 1 | 1 | | | | | | | | | | 1 | 1 | | |
| | 大学院 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 橋谷奨学会 | 学部 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 大学院 | 2 | 1 | 1 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| とうきゅう外来留学生奨学財団 | 学部 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 大学院 | 1 | 2 | 2 | | | 1 | | 2 | 1 | | | 1 | 1 | | | | | | | |
| 平和中島財団 | 学部 | | 1 | 1 | | | | 1 | 1 | | | | | | | | | | | | |
| | 大学院 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | | | 1 | 1 | 1 | | 1 | 1 | 1 | 1 | | 1 | 1 | |
| 日揮・実吉奨学会 | 学部 | | 2 | | 1 | | | 3 | | | | | | | | | | | | | |
| | 大学院 | | 2 | 3 | 4 | 4 | 5 | | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 3 | 2 | 2 | 1 |
| 国際ｿﾛﾌﾟﾁﾐｽﾄ日本財団 | 学部 | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 大学院 | | 1 | | 1 | 1 | 1 | | | | | | | | | | | | | | |
| 久保田豊基金 | 学部 | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 大学院 | | | 1 | | | | | | | | | | | 2 | | 1 | 1 | | 1 | 1 |
| 佐藤陽国際奨学財団 | 学部 | | | 1 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | 1 |
| （旧：ｻﾄｰ国際奨学財団） | 大学院 | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | 1 | 1 | 1 | 1 |
| ｱｼﾞｱ太平洋大学交流機構 | 学部 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 留学生支援奨学一時金 | 大学院 | | | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| KDDI財団 | 学部 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| （旧：国際ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ基金） | 大学院 | | | | 1 | | | | | | | | 1 | | | 1 | 1 | 1 | 2 | 1 | 1 |
| CWAJ奨学金 | 学部 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 大学院 | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 伊藤国際教育交流財団 | 学部 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 大学院 | | | | | 1 | 1 | | | | | | | | | 1 | 1 | | | | |
| 岩谷直治記念財団 | 学部 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 大学院 | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | 1 | 3 |
| 川嶋章司記念ｽｶﾗｰｼｯﾌﾟ基金 | 学部 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 大学院 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ﾄﾞｺﾓ留学生奨学金 | 学部 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 大学院 | | | | | | 1 | 1 | | | | 1 | 2 | | 1 | 1 | | 1 | 2 | 2 | 1 |
| 共立国際奨学財団 | 学部 | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | |
| | 大学院 | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | 1 | | |
| 朝鮮奨学会 | 学部 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 大学院 | | | | | | | | | | 1 | | | | 1 | 1 | | | | | |
| ｴﾇ・ｴｽ知覚科学振興会 | 学部 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 大学院 | | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | |
| ﾕﾆｵﾝﾂｰﾙ奨学会 | 学部 | | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | |
| | 大学院 | | | | | | | | | | | 1 | 1 | | | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 |
| ﾚｵﾊﾞﾚｽ21留学生奨学金 | 学部 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 大学院 | | | | | | | | | | | | | 1 | | | | | | | |
| ﾏﾌﾞﾁ国際育英財団 | 学部 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | 1 |
| | 大学院 | | | | | | | | | | | | | 1 | | | | | | | |
| 高山奨学財団 | 学部 | | | | | | | | | | | | | 1 | 1 | 1 | 1 | | | | |
| | 大学院 | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | 1 | | |
| 似鳥奨学財団 | 学部 | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | | | |
| | 大学院 | | | | | | | | | | | | | | 2 | 5 | 3 | | | | 1 |
| 新潟県 | 学部 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 大学院 | | | | | | | | | | | | | | 1 | 1 | 1 | 2 | | | |
| ｱｸｱ奨学会 | 学部 | | | | | | | | 1 | 1 | | | | | | | | | | | |
| | 大学院 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ㈱野口製作所奨学金 | 学部 | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | 2 | 2 | 1 | |
| | 大学院 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 |
| ﾌｼﾞｼｰﾙﾊﾟｯｹｰｼﾞﾝｸﾞ教育振興財団 | 学部 | | | | | | | | | | | | | | | | | 2 | 3 | 1 | 1 |
| | 大学院 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 本庄国際奨学財団 | 学部 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 大学院 | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | 1 | 1 | 1 |
| 上田奨学財団 | 学部 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 大学院 | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | 1 | |
| 大森昌三記念財団 | 学部 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | |
| | 大学院 | | | | | | | | | | | | | | | | | | 2 | 1 | 1 |
| 三菱ベトナム原子力 | 学部 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 大学院 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | 1 |
| 斉藤稜兒イスラム研究助成基金 | 学部 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 大学院 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | |
| イノアック国際教育振興財団 | 学部 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 大学院 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | 1 |

# 国立大学法人長岡技術科学大学国際連携センター規則

（平成 23 年 3 月 28 日
規　則　第　１０　号）

（趣旨）

第１条　この規則は、国立大学法人長岡技術科学大学学則第６条第２項の規定に基づき、国立大学法人長岡技術科学大学国際連携センター（以下「センター」という。）について、必要な事項を定める。

（目的）

第２条　センターは、学内共同教育研究施設として、国立大学法人長岡技術科学大学（以下「本学」という。）における海外の学術機関との交流の促進並びに外国人留学生（以下「留学生」という。）の教育指導及び学生の国際交流推進等を行い、もって、本学の教育研究の国際的な連携（以下「国際連携」という。）の推進に貢献することを目的とする。

（業務）

第３条　センターは、前条の目的を達成するため、次の各号に掲げる業務を行う。

一　海外機関との連携教育の推進に関すること。
二　海外機関との学術交流の推進に関すること。
三　海外機関への広報活動に関すること。
四　留学生に対する修学支援等及び生活上の指導助言に関すること。
五　学生の国際交流推進に関すること。
六　地域の国際交流推進に関すること。
七　国際連携に係る危機管理に関すること。
八　国際連携教育の発展に資する研究に関すること。
九　国際連携に係わる事務処理及び連絡調整に関すること。
十　その他前条の目的を達成するために必要な事項

（組織）

第４条　センターは、学長が指名する教員及び事務職員をもって組織する。

（国際連携センター長）

第５条　センターにセンター長及び副センター長（以下「センター長等」という。）を置く。

２　センター長は、センターの業務を総括する。

３　副センター長は、センター長を補佐し、センター長に事故があるときは、その職務を代行する。

（センター長等の選考）

第６条　センター長の選考に関し必要な事項は、別に定める。

２　センター長は、学長が任命する。

３　副センター長は、センター長の推薦に基づき、学長が任命する。

（センター長等の任期）
第７条　センター長等の任期は２年とし、再任を妨げない。ただし、欠員が生じた場合の後任のセンター長等の任期は、前任者の残任期間とする。

（日本語研修コース及び日本語基礎コース）
第８条　センターに、大学院等入学前予備教育を行う日本語研修コース及び日本語初級学習者等のための日本語基礎コースを置く。
２　日本語研修コース及び日本語基礎コースに関し必要な事項は、別に定める。
３　前２項に規定するもののほか、留学生に対する日本語教育等は、基盤共通教育部ほか各専攻と連携して行う。

（国際連携コーディネーター）
第９条　国際連携に関する高度な専門的知識を要する業務を行うために、国際連携コーディネーター（以下「コーディネーター」という。）を置く。
２　コーディネーターは、国際連携に関する専門的知識を有する者をもって充てる。
３　コーディネーターは、国際連携活動の支援及び実行に関する業務を行う。

（国際連携オフィサー）
第 10 条　国際連携に関する高度な専門的知識を要する事務を行うために、国際連携オフィサー（以下「オフィサー」という。）を置く。
２　オフィサーは、国際連携に関する専門的知識を有する事務職員をもって充てる。
３　オフィサーは、国際連携活動の支援に関する専門的知識を要する事務を行う。

（雑則）
第 11 条　この規則に定めるもののほか、センターに関する必要事項については、学長が別に定める。

附　則
１　この規則は、平成 23 年４月１日から施行する。
２　国立大学法人長岡技術科学大学国際センター規則（平成 16 年４月１日規則第 61 号）は、廃止する。

附　則（平成 27 年３月 26 日規則第 15 号）
この規則は、平成 27 年４月１日から施行する。

## 国際連携センター構成員　（平成 30 年３月１日現在）

| No. | 所属・氏名等 | | |
|---|---|---|---|
| 1 | 理事・副学長 | 三上　喜貴 | （国際連携・産学連携担当） |
| 2 | センター長 | 杉本　光隆 | 教授（環境社会基盤工学専攻） |
| 3 | 副センター長 | 大川　晴美 | 国際課長 |
| 4 | 連携教育コーディネーター | 吉岡　愛子 | 国際課 |
| 5 | スタッフ（教員） | Thwe Thwe Aung | 助教（機械創造工学専攻） |
| 6 | スタッフ（教員） | 岩橋　政宏 | 教授（電気電子情報工学専攻） |
| 7 | スタッフ（教員） | Siriporn Taokaew | 助教（物質材料工学専攻） |
| 8 | スタッフ（教員） | 高橋　修 | 教授（環境社会基盤工学専攻） |
| 9 | スタッフ（教員） | 陸　旻皎 | 教授（環境社会基盤工学専攻） |
| 10 | スタッフ（教員） | 松田　曜子 | 准教授（環境社会基盤工学専攻） |
| 11 | スタッフ（教員） | 滝本　浩一 | 教授（生物機能工学専攻） |
| 12 | スタッフ（教員） | Do Thi Mai Dung | 助教（原子力システム安全工学専攻） |
| 13 | スタッフ（教員） | 山田　昇 | 教授（技術科学イノベーション専攻） |
| 14 | スタッフ（教員） | 伴　浩美 | 教授（基盤共通教育部） |
| 15 | スタッフ（教員） | リー飯塚　尚子 | 准教授（基盤共通教育部） |
| 16 | スタッフ（教員） | 永野　建二郎 | 講師（基盤共通教育部） |
| 17 | スタッフ（教員） | Drier Brian Seth | 助教（基盤共通教育部） |
| 18 | スタッフ（教員） | 須田 アルナローラ | 教授（国際連携センター） |
| 19 | スタッフ（事務） | 大崎　博行 | 課長補佐 |
| 20 | スタッフ（事務） | 下妻　功 | 国際企画係長 |
| 21 | スタッフ（事務） | 今井　陽子 | 国際企画係主任 |
| 22 | スタッフ（事務） | 五十嵐　千枝 | 国際交流係長 |
| 23 | スタッフ（事務） | 村上　満里絵 | 国際交流係員 |
| 24 | スタッフ（事務） | 丸山　修央 | 留学生支援係長 |
| 25 | スタッフ（事務） | 中村　真理 | 留学生支援係主任 |
| 26 | スタッフ（事務） | 安原　明子 | 専門職員（国際連携担当） |

（日本語特任教員・非常勤講師・謝金講師）

| No. | 担当コース・授業、氏名等 | | |
|---|---|---|---|
| 1 | 日本語研修コース<br>日本語基礎コース<br>ビジネス日本語入門<br>日本語能力試験対策 | 片野　洋平 | 特任助教 |
| 2 | 日本語研修コース<br>日本語基礎コース | 原口　こずえ | 非常勤講師兼任謝金講師 |
| 3 | 日本語基礎コース | 涌井　祐子 | 謝金講師 |
| 4 | 日本語基礎コース | 小林　律子 | 謝金講師 |
| 5 | 日本語基礎コース | 近藤　優美 | 謝金講師 |

平成 29 年度国際連携センター会議　開催実績

○第１回

日時：　平成 29 年５月 15 日（月）

議題：

（１）スーパーグローバル創成支援事業

・短期留学生受入プログラムについて（NASSYE）

（２）平成 29 年度グローバルリーダー養成のための短期海外派遣プログラムについて

（３）平成 29 年度国際連携センター予算について

（４）平成 29 年度国際連携センター行事について

（５）今後の留学生数拡大政策について

・留学生数拡大に関するアンケート調査

（６）その他

・平成 28 年度留学生等交流スキー研修について

・大学の世界展開力強化事業～ロシア、インド等との大学間交流形成支援～の申請について

○第２回

日時：　平成 29 年７月 10 日（月）〔メール審議議決日〕

議題：

（１）平成 29 年度留学生等実地見学旅行について

（２）平成 29 年度「グローバルリーダー養成のための短期海外派遣プログラム」の参加者について

○第３回

日時：　平成 29 年８月９日（水）〔メール審議議決日〕

議題：

（１）平成 29 年度後期日本語基礎コース、研修コースの計画について

○第４回

日時：　平成 29 年８月 29 日（火）〔メール審議議決日〕

議題：

（１）平成 29 年度国際連携センター年報について

○第５回

日時：　平成 29 年 11 月 20 日（月）

議題：

（１）平成 29 年度グローバルリーダー養成のための短期海外派遣プログラム追加募集について

（２）スーパーグローバル大学創成支援事業　短期留学生受入プログラム(NASSYE)について

（３）留学生と国際連携に関する意見調査

○第６回

日時：　平成 29 年 12 月 25 日（月）〔メール審議議決日〕

議題：

（１）スーパーグローバル大学創成支援事業　短期留学生受入プログラム

・2018 Nagaoka Summer School for Young Engineers (NASSYE)について

○第７回

日時：　平成 30 年３月２日（金）〔メール審議議決日〕

議題：

（１）平成 29 年度国際連携センター年報の作成について

（２）平成 29 年度版長岡技大の国際展開の作成について

○第８回

日時：　平成 30 年３月 16 日（金）〔メール審議議決日〕

議題：

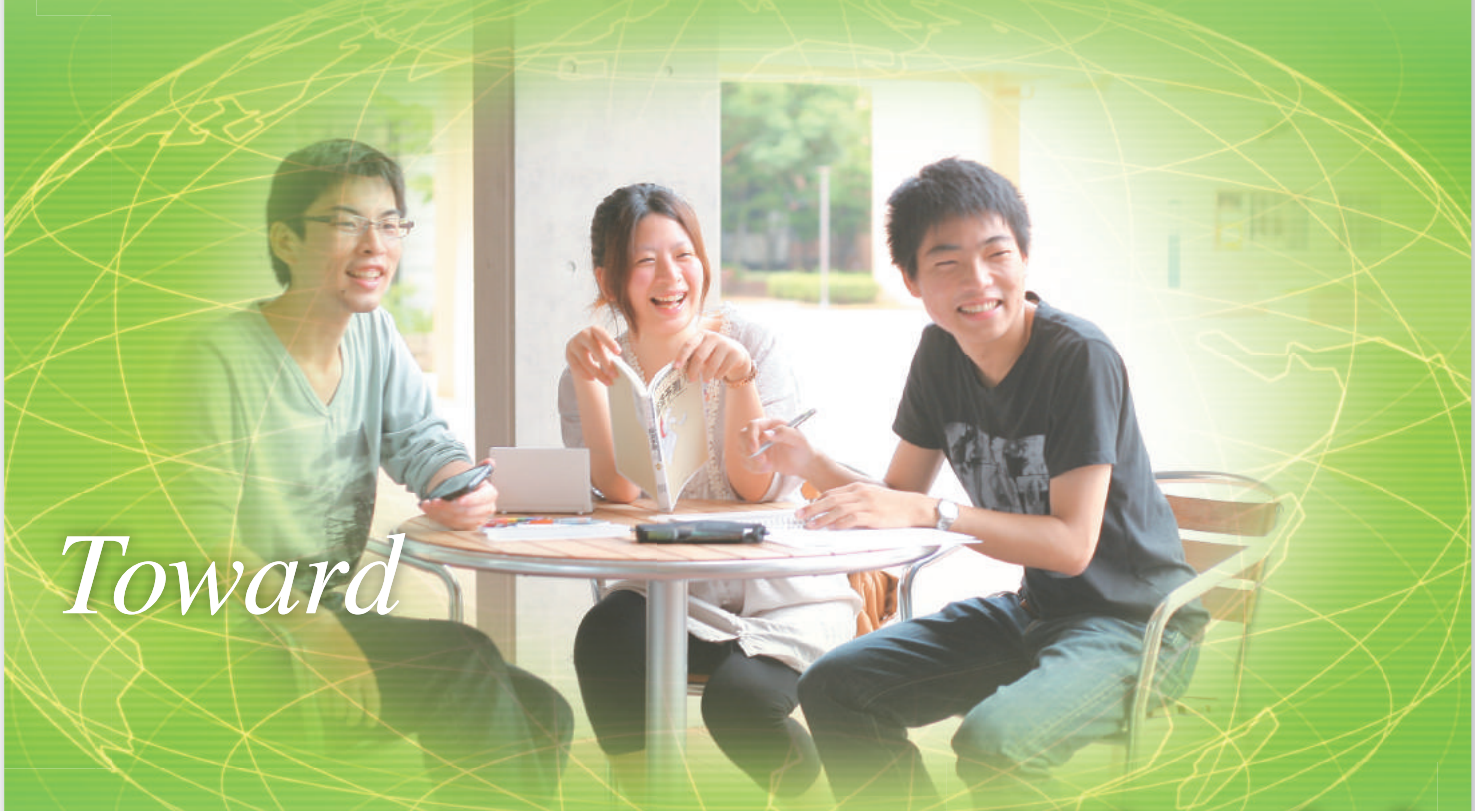
（１）平成 30 年度前期日本語基礎コース、研修コースの計画について

# 長岡技大の国際展開

2017▶2018

VOS

Vitality Originality Services



Toward The World

UNITED NATIONS academic impact

Sharing a Culture of Intellectual Social Responsibility

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

- 高等教育に必要とされるスキル、知識を習得する機会を全ての人に提供する
- 世界各国の高等教育制度において、能力を育成する
- 持続可能性を推進する

長岡技術科学大学は国連アカデミック・インパクトのメンバーです

https://www.academicimpact.jp/nagaokaut/

長岡技術科学大学

Nagaoka University of Technology

# 長岡技大が目指す国際交流

長岡技大は、創立以来約40年の間にきわめて**特異な国際交流を展開**し、グローバル社会に対応した教育・研究システムの礎を築き上げてきました。また、技大の特徴である全国の高専と連携し、一体となることで、世界に類をみない大規模な国際性豊かな高等教育研究組織体を形成することが可能な環境にあります。

今後も、これらのリソースを最大限に活用し、日本の技術力・ものづくり文化を世界に広め、異文化・自国文化を理解した実践的グローバル人材を社会に送り出し、世界に貢献することで、激動するグローバル時代においても「**確固たる存在感のある長岡技大**」を目指します。

## 1 広がる国際ネットワーク

### 国際交流の実績

長岡技大は、発展目覚ましい東アジア・東南アジア諸国、中南米諸国などを中心として、各国の大学・研究機関等と国際学術交流協定を締結するとともに、多くの外国人留学生・研究者を受入れており、全世界に広がるグローバルな技術者育成教育・研究ネットワークを構築しています。

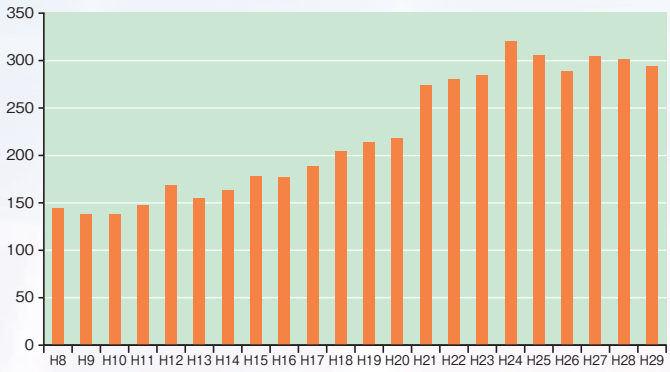
また、高専等との連携により、海外の大学・研究機関等から最先端研究情報等を収集、分析する体制の構築を目指しています。

○**学術交流協定**　26カ国　99機関（海外の大学・研究機関、部局間協定も含む）
○**外国人留学生**　26の国・地域　294人（学生総数の約12%）
（平成29年10月1日現在）
○**海外現地事務所**　ベトナム：ハノイ／メキシコ：モンテレイ、グアナファト

**ここが特色！**

■留学生比率（約12%）は**国立大学トップクラス**です。
■ベトナム、マレーシア、タイ、メキシコなどの急速に発展しつつある国々から多くの留学生を受入れています。
■技大の活動範囲は、**世界人口の約90%の国・地域をカバー**しています。

留学生数の推移




（毎年 10 月 1 日現在）

## 2 世界とつながる教育プログラム

### 国際連携教育プログラムの構築

長岡技大は、国立大学法人化以前より海外の大学との協働教育プログラムを開発し、国立大学として初めてツイニング・プログラムを導入するなど、国際連携教育プログラムの開発・運用においてパイオニアです。ツイニング・プログラムでは、日本語で専門技術が分かる数多くの学生を社会に輩出し、卒業生の多くが国内企業や現地企業の指導的技術者として活躍するなど、大きな成果をあげています。

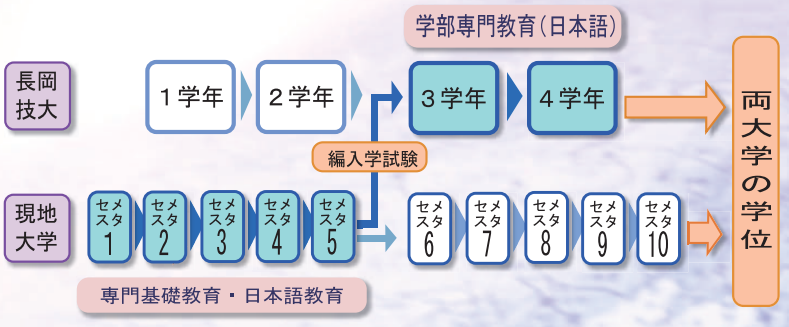
また、大学院生レベルの国際連携として修士・博士後期課程のダブルディグリー・プログラムを実施するなど、教育の質の保証を確保しつつ、新たな国際連携教育プログラムの構築に取り組んでいます。

○**ツイニング・プログラム（学部生対象）**
ベトナムTP（ハノイ工科大学、ホーチミン市工科大学、ダナン工科大学）
メキシコTP（モンテレイ大学、ヌエボレオン州立大学）
中国TP（鄭州大学）
マレーシアTP（マレーシア日本高等教育プログラム〔MJHEP〕）
モンゴルTP（モンゴル科学技術大学〔M-JEED〕）
○**ダブルディグリー・プログラム（大学院生対象）**
グアナファト大学（メキシコ）（修士課程・博士後期課程）
マレーシア科学大学（マレーシア）（博士後期課程）
チュラロンコン大学（タイ）（博士後期課程）
ハノイ工科大学（ベトナム）（博士後期課程）
プラハ・カレル大学（チェコ）（博士後期課程）
○**社会人留学生特別コース（大学・大学院卒業・修了生対象）**
アジア・中南米等すべての発展途上国の社会人に、さらなる工学の学習・研究機会を与えています。母国の産業発展で中心的役割を担う人材を養成します。
大学院（修士課程・博士後期課程）20人　程度／年

**ここが特色！**

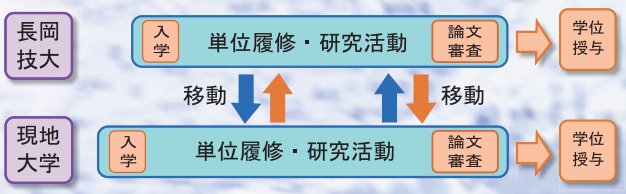
■**国立大学初**のツイニング・プログラムを創始し、強力に推進しています。
■パートナー大学の発展に寄与し、**ゆるぎない「絆」**を構築しています。
■**工学教育のユニバーサルデザイン化**では多くの成果を出しています。
　一平易な日本語（PJ：Plain Japanese）による工学教育の実践 など

ツイニング・プログラム（学部）基本スキーム




ツイニング・プログラム（Twinning Program）では、学部の前半（通常2.5年）は現地の大学にて日本語教育及び専門基礎教育、後半2年は日本において専門教育を実施し、プログラムを修了すると両大学の学位が取得できます。

ダブルディグリー・プログラム（大学院）基本スキーム
博士後期課程の場合



# 国際交流　基礎データ

## ■留学生数

（平成29年10月1日現在）

| 国・地域 | 区分等 | 学部正規生 | 大学院正規生 | | | | 研究生等 | 合　計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 修士課程 | 博　士<br>後期課程 | 5年一貫制<br>博士課程 | 専 門 職<br>学位課程 | | |
| ア　ジ　ア | インド | | 1 | 2 (1) | | | | 3 (1) |
| | インドネシア | 2 | 3 | 1 | | | | 6 |
| | カンボジア | 1 | | | | | | 1 |
| | スリランカ | | 3 (1) | 12 (6) | | | 1 | 16 (7) |
| | タイ | | 9 (4) | 17 (8) | 2 (2) | | 5 (2) | 33 (16) |
| | 中国 | 18 (2) | 24 (5) | 9 (4) | 1 (1) | | 7 (1) | 59 (13) |
| | バングラデシュ | | 5 (1) | 1 | | | | 6 (1) |
| | 東ティモール | | | 1 | | | | 1 |
| | ベトナム | 41 (3) | 30 (2) | 29 (8) | 3 (1) | | | 103 (14) |
| | マレーシア | 11 (8) | | 3 (2) | 1 (1) | | | 15 (11) |
| | ミャンマー | | 4 (3) | 4 (3) | | | | 8 (6) |
| | モンゴル | | 2 (1) | | | | | 2 (1) |
| ア　フ　リ　カ | エリトリア | | | 1 | | | | 1 |
| | エチオピア | | 1 | | | | | 1 |
| | カメルーン | | | 1 | | | | 1 |
| | セネガル | | | | | | 1 | 1 |
| | タンザニア | | 1 | | | | | 1 |
| | ナイジェリア | | | | | | 1 | 1 |
| | 南スーダン | | | | | | 1 | 1 |
| ヨ　ー　ロ　ッ　パ | スイス | | | | | | 1 | 1 |
| | スペイン | | 1 | | | | 1 | 2 |
| | ポーランド | 1 (1) | | | | | | 1 (1) |
| 中　南　米 | ブラジル | | 1 | | | | | 1 |
| | ベネズエラ | | 1 | 1 | | | | 2 |
| | メキシコ | 13 (1) | 11 | 3 (2) | | | | 27 (3) |
| 合　計 | | 87 (15) | 97 (17) | 85 (34) | 7 (5) | | 18 (3) | 294 (74) |

※（　）内は女子を内数で示す

## ■国際学術交流協定

（平成29年10月1日現在）

| 国・地域 | | 協定締結機関 |
|---|---|---|
| アジア | インド | インド工科大学マドラス校、インディラガンジ原子力研究所、インド情報・設計・生産技術大学カーンチプラム校 |
| | インドネシア | バンドン工科大学、スルヤ大学、インドネシア大学 |
| | ベトナム | ハノイ工科大学、ダナン大学、ホーチミン市工科大学、ホーチミン市技術教育大学、ベトナム海事大学、ベトナム原子力研究所、ホーチミン市科学大学 |
| | 韓国 | ウルサン大学、韓国電気技術研究所、釜山国立大学、韓国生産技術研究院、韓国国立全北大学工学部※、ソガン大学李研究室※、ハンバット大学電気化学エネルギー研究室※、国立忠南大学金鍾賢研究室※ |
| | スリランカ | サバラガムワ大学 |
| | タイ | タマサート大学、パトムワン工科大学、タイ商工大学、コンケーン大学、ラジャマンガラ工科大学タンヤブリ校、国立科学技術開発機構、泰日工業大学、アジア工科大学、チュラロンコン大学、スラナリ工科大学、メーファールアン大学、カセサート大学、パンヤピワット経営大学、キングモンクット大学トンブリー校、チェンマイ大学工学部機械工学科※、シンクロトロン放射光研究所※ |
| | 中国 | 大連理工大学、河海大学、鄭州大学、重慶交通大学、中国科学院長春応用化学研究所、中国科学院金属研究所、河南理工大学安全科学工程学院※、重慶大学工学部※、南華大学核技術科学院※、上海交通大学動的システム制御研究室※、北京科学技術大学国立材料サービス安全センター高温高圧研究室（3者間協定）※ |
| | 台湾 | 国立台北科技大学、国立清華大学、国立台湾科技大学機械工学科・電子工学科・電気工学科・情報工学科※ |
| | マレーシア | マラヤ大学、マレーシア工科大学、マレーシア科学大学、マラ工科大学、マレーシア国民大学、トゥンフセインオンマレーシア大学、クアラルンプール大学※、マラッカ工業大学工学部※ |
| | ミャンマー | ヤンゴン工科大学、ヤンゴンコンピューター大学、ヤンゴン情報技術大学 |
| | モンゴル | モンゴル科学技術大学、モンゴル国立教育大学 |
| 大洋州 | オーストラリア | オーストラリア原子力科学技術機構、カーティン大学理工学部※ |
| 欧州（NIS諸国を含む） | イギリス | クイーンズ大学ベルファスト校、ノッティンガム大学パワーエレクトロニクス・機械制御グループ※ |
| | スペイン | カタルニア工科大学、デウスト大学、モンドラゴン大学工学部※ |
| | チェコ共和国 | プラハ・カレル大学数学・物理学部物理学科※ |
| | ドイツ | ダルムシュタット工科大学、応用科学大学、マグデブルグ大学及びマグデブルグ応用科学大学安全防災コース※、ドイツゴム研究所※ |
| | フランス | パリ大学クレテイユヴァルドマルヌ校、アミアン電子電気工学技術高等学院※、リモージュ大学セラミック加工・表面処理研究所※、メーヌ大学分子材料研究所※ |
| | スイス | スイス連邦工科大学チューリッヒ校電力工学システム研究室※、チューリッヒ応用科学大学工学部 |
| | ハンガリー | ミシュコルツ大学 |
| | ノルウェー | ノルウェー科学技術大学エネルギー変換研究グループ※ |
| | アゼルバイジャン | アゼルバイジャン科学アカデミーバクー物理学研究所 |
| 北米 | アメリカ | テキサス大学エルパソ校、コー大学物理学科※ |
| | カナダ | マニトバ大学 |
| 中南米 | メキシコ | グアナファト大学、ミチョアカナ大学、モンテレイ工科大学、ヌエボレオン大学、モンテレイ大学、レジオモンタナ大学、国立工科大学、シウダーフアレス大学 |
| | ベネズエラ | シモン・ボリバール大学 |
| アフリカ | 南アフリカ | ツワネ工科大学 |

※部局間又は研究室間協定

# 3 飛躍するグローバル人材

## 実践的グローバル人材の育成

グローバル社会が到来し、工業技術、生産・価格、人材の世界レベルの競争が始まっています。今後、「技術立国」日本を支える人材は臆することなく世界に飛び込む実践的・創造的技術者です。

長岡技大は、開学以来独自の長期インターンシップ科目「実務訓練」を行っており、日本人学生の「内向き」が指摘されているなか、グローバル社会に対応するべく海外への派遣を積極的に進めていくとともに新たな海外実務訓練先の開拓も行っています。

今後も、海外機関との交流等を通し、日本人学生の海外活動の機会をさらに増やし、国際感覚豊かな学生を育成する「**双方向の交流**」を目指します。

**【実務訓練制度の概要】**

社会との密接な接触を通じて、将来、指導的技術者として活躍する際に、必要となる人間性の陶冶と、実践的技術感覚を体得させることを目的として、学部第4学年後半に約5か月間、企業、官公庁等において実務訓練（インターンシップ）を昭和54年より実施しており、平成2年からは海外へも派遣先を広げました。

**【海外実務訓練】**（平成2年より実施）

**○平成29年度実績**

派遣学生：66人（実務訓練生全体の約16%）　派遣国：14カ国　37機関

**○これまでの実績（平成29年度まで）**

＊派遣学生（累計）　847人

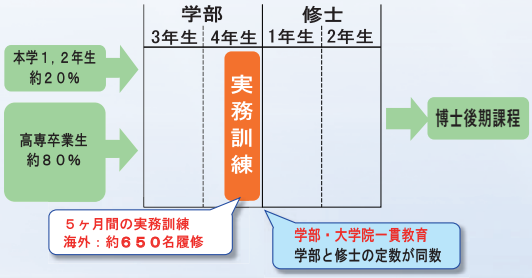
＊派遣国・派遣地域

アメリカ、イギリス、インド、インドネシア、オーストラリア、韓国、シンガポール、スペイン、タイ、ドイツ、ノルウェー、フランス、ベトナム、マレーシア、メキシコ、コスタリカ

＊海外派遣企業・研究所

ヨーク日本電子ナノセンター（イギリス）、オーストラリア原子力科学技術機構（オーストラリア）、NIDEC COPAL Thailand（タイ）、SIAM SENATER（タイ）、ADVANTEST（M）Sdn.Bhd（マレーシア）、PT.MEKAR ARMADA JAYA（インドネシア）、Polyplastics Marketing（T）Ltd.（タイ）、KYB Steering Thai（タイ）、Hino Motors Manufacturing（タイ）、MTEC（タイ）、Schaeffler Technologies AG & Co.KG（ドイツ）、SINTEF（ノルウェー）、ソリマチベトナム（ベトナム）、N.B.A Trading and Production Co.Ltd(ベトナム)、Experimental Therapeutics Center（シンガポール）、Tata Consultancy Services Japan（インド）、アズビルプロダクション（タイ）、Western Digital（タイ）、新電元タイランド（タイ）、ネクシード（フィリピン）など

### 実務訓練の概要

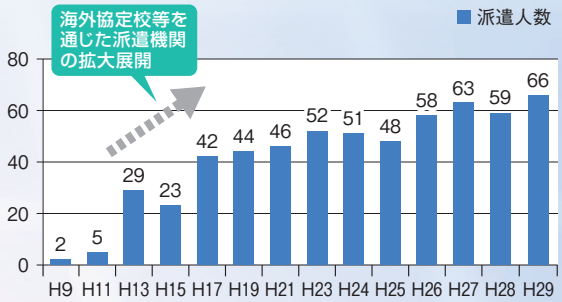



H15年度　特色GPに採択（文部科学省）
H15年度　工学教育賞・文部科学大臣賞受賞（日本工学教育協会）

**【グローバルリーダー養成のための短期海外派遣プログラム】**

平成23年度から、大学院博士後期課程学生を対象に、外国語によるコミュニケーション能力の向上、海外へのチャレンジ精神等グローバル人材に求められる素質・能力の強化を目指すとともに、海外の大学等で研究成果を発表することによるプレゼンテーション能力の強化等を目的とした短期海外派遣プログラム（約1～3か月程度）を実施しています。

### 海外実務訓練の実績




**ここが特色！**

■約5か月にわたる**長期海外インターンシップ（実務訓練）**の機会を提供しています。
■実務訓練生の約16%が海外でのインターンシップを選んでいます。
■ホンモノの技術の現場でホンモノのインターシップをやっています。

# 4 社会と連携する大学

## 国際貢献活動、地域と連携した国際交流活動

長岡技大は、（独）国際協力機構（JICA）が実施する技術協力事業などに積極的に参加しています。特に東南アジア諸国等における高等教育開発計画においては、数多くの教員を派遣するなど、各国の高等教育機関の設立等に大きな貢献をしています。

**○国際貢献活動**

＊インドネシア高等教育開発計画（平成5年）　・タイ・アジア工科大学専門家派遣（平成元年～継続中）
＊タイ・パトムワン工業高等専門学校拡充計画（平成5年～平成12年）
＊タイ・タマサート大学工学部拡充計画（平成6年～平成13年）
＊マレーシア日本国際工科院（MJIIT）計画（平成15年～継続中）
＊インドネシア電気系ポリテクニック教員育成計画（平成13年、平成14年）
＊サウジアラビア・リヤド技術短期大学電子工学技術教育改善計画（平成12年）
＊東ティモール大学工学部支援計画（平成14年～継続中）
＊アフガニスタン中核人材育成プロジェクト（平成23年～平成26年度3月修了）
＊エリトリア高等教育支援（平成23年～継続中）
＊モンゴル工学系高等教育支援事業（平成26年～継続中）
＊その他（中国内陸部人材育成事業、ベトナム・情報処理研修計画、ベトナム・メコン河流域水門モニタリング計画調査、ミャンマー・経済構造調整政策支援など）

**ここが特色！**

■発展途上国への**技術協力実績は国内大学でも有数。**
■多くの教員が技術協力活動に参画。
■支援した機関等からも多くの学生・研究者を受入れ。

新潟県長岡市に位置する長岡技大は、新潟県国際交流協会、長岡市、長岡市国際交流センター、地域国際交流ボランティア等と地域と連携した国際交流活動を展開しています。また、地元企業の協力による留学生インターンシップの受入れなど、地域企業の協力を得て日本企業の技術・企業文化の理解を促進するための活動も行っています。さらに、学生・留学生は自ら進んで地域のイベントに参加・協力するなど、地域コミュニティーと交流する風土が根付いています。

**○長岡国際祭り**

長岡市及び近隣地域市民等の国際交流及び異文化交流を目的として毎年実施
各国の料理や踊り等のパフォーマンスが披露される。

**○その他、地域の国際交流イベント**

＊地域の国際交流ボランティア（むつみ会等）との協力（留学生対象の生活相談を毎週開催）
＊外国人による日本語スピーチコンテスト（むつみ会主催）
＊留学生を国際交流講師として地域の小中学校へ派遣（「世界が先生ー国際人育成事業」長岡市）

**ここが特色！**

■**地域密着型**、顔の見える国際交流・異文化交流。
■地域に支えられた国際交流。

## 成　果　物

**日本語学習途上の留学生への集中講義を積極的にFD（Faculty Development）の機会ととらえ、事前研修ー講義ーフォローアップを実施、学内外の教員に開放（FD道場）**

◎FD効果とともに、日本語教育へのフィードバックが可能
◎研修テキスト「**はじめての集中講義物語**」の出版

はじめての
集中講義物語

日本語教育に専門基礎の内容を取込んだ、「**機械工学で学ぶ中級日本語**」の出版
専門教員と日本語教員との協働の成果

機械工学で学ぶ中級日本語

平易な日本語で工学基礎科目（技術者倫理）を記述した「**歴史と人物に学ぶ技術者の責任**」の出版

**工学用語辞書**（ベトナム語、タイ語、マレー語、中国語、スペイン語、インドネシア語、韓国語、モンゴル語）を出版

**出版物は、全国の高専や関係機関に配布**

## 留学生へのサポート

**【入学後の生活サポート】**

入学後は、国際連携センターが中心となり、留学生の日常生活、大学生活、修学、健康等についてサポートやアドバイスを行うとともに、チューター制度により、渡日後の半年間は、身近な日本人学生がチューターとして付き、幅広くサポートを行います。

留学生用の宿舎には、合計で約100名の入居が可能で、経済的負担も軽減され、充実した学生生活を送ることが可能です。アパートに入居する者に対しては、契約にあたり、機関保証制度により、大学が機関として保証をします。

また、留学生が充実した大学生活を送れるよう、毎年、見学旅行、スキー研修、ホームステイ、交流懇談会等の行事を実施しています。

**【入学後の学習サポート】**

留学生が日本語・日本文化をスムーズに学べるよう、多様なニーズ、レベルに合わせた日本語授業を多数開講しています。

また、「留学生向けの日本語」を用いた工学教育方法の充実も図っています。平易な日本語（Plain Japanese）を用いた工学基礎教材の開発や工学用語辞書の出版等により、留学生の専門科目の学習をサポートしています。

日本語の授業の様子

## Life@NUT

新潟県の中央に位置する長岡市は、「米百俵」の舞台になった地であり、古来より教育に重きをおく土地柄です。その精神は脈々と受け継がれ、連合艦隊司令長官・山本五十六を始め多くの人材を輩出しています。

夏には「長岡まつり大花火大会」が開催され、全国各地からの見物客が訪れます。また、冬には一面の雪景色が楽しめます。

長岡技大は、長岡市街を見渡す丘陵に位置し、落ち着いた雰囲気のキャンパスには、全国各地から「技術オリエンテッド」な熱い学生・教員たちが集結しています。

日夜、研究に勤しみ、深夜でも煌々と明かりが灯るその風景は、さながら現代の不夜城です。

**編集・発行**　長岡技術科学大学　学務部国際課
〒940-2188　新潟県長岡市上富岡町1603-1　TEL：0258-47-9238　FAX：0258-47-9283
ホームページ　http：//www.nagaokaut.ac.jp/

2018.3

リサイクル適性Ⓐ
この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。

長岡技術科学大学国際連携センター年報　第７号

国立大学法人
長岡技術科学大学
Nagaoka University of Technology

発行　平成 30 年７月
発行者　長岡技術科学大学国際連携センター
〒940-2188
新潟県長岡市上富岡町 1603-1